

# 明代の地方官ポストにおける身分制序列に關する一考察

—縣缺の清代との比較を通じて—

和田 正 廣

はじめに

- 一 選任・考課における進士偏重の諸情況
  - 二 地方志の職官における資格固定化の實態
    - 1 縣缺の繁簡と進士の繁缺への優先配分
    - 2 資格身分の縣官ポストへの貫徹
- おわりに

はじめに

「官爵は科第に由り出づる者なり」<sup>(1)</sup>という十八品級の官を得るための前提である科擧の進士・舉人・監生・生員等の資格は、明初に成立した特權を伴う一種の學位に基づく終身身分を意味した。學校制度を包括して成立したのが明清時代の科擧制度の特色であり、郷試合格者の舉人、國子監在籍の貢監生（貢生）・監生、府・州・縣各官學の生員という科擧受験のために必須のヒエラルキー的終身資格の保持者は、可變的な資格の上昇による任官や、徭役優免乃至は禮法上の諸特權をテコに、宋代以來の謂わばピラミッドの上層部に過ぎなかった進士や諸科出身者を主體とした舊士大夫層の基底部を、

膨大な數量の身分諸階層（進士の約三十三倍<sup>(2)</sup>）で擴張せしめ、明代中期以降には、「社會の實質面から紳と士に區分<sup>(3)</sup>」される紳士層を形成した。しかし、それら諸階層の中、明末の舉人は既に縉紳として紳の範疇で表現されていたが、貢生・監生・生員といえども縉紳と表現される場合もあった<sup>(4)</sup>。だが、一般的には士の範疇にあった彼らが從來の士の範疇に加えて、紳の範疇を意味する「紳士」の一語で表現され始めたのは、彼らに對する法制上の衣頂の賜給や、免役・納稅延期・體面擁護等の諸特權の保證が確立する雍正・乾隆年間であつた<sup>(5)</sup>。それ故、從來は士<sup>(6)</sup>の範疇で表現されていた監生層が、清代後半には郷紳範疇で表現される事例も現われた。

こうした點を、禮法上より、郷紳と現任官との交際關係の變化としてみてみよう。明末清初の松江府の一生員（青衿）であつた葉夢珠は、閱世編卷八、交際の條で、明末より清初の順治年間までは、進士・副榜舉人・舉人・貢生・監生・雜途出身の各郷紳が、地方高官の撫按と交際する時は出身の如何が問題とされた、と言う。つづいて葉は、「康熙初めに至り、郷紳の督撫兩臺と交際するに、始めて等職を分ち、出身を論ぜず」と述べ、康熙年間に至つて、出身を異にする郷紳が督・撫と交際する時でも、職權或いは品級が同等か否かが問題とされ始め、科舉・學校・胥吏といった出身差は最早や問題とはされなくなった、という重要な指摘を行なつた。この點は、後述の康熙元年の上諭とも關連する。交際關係における禮法上に、同等の官職という新たな基準が現われ始めたのは、後述する明代以來の昇進における出身資格の差等を問題とした基準が清代には緩和されていた點を示唆している。優免制においても、明末には品級と資格差によって嚴重な區別がみられたが、清代には官員より生員に至るまで一様に本人一丁の丁徭（田土額）だけに優免は制限されて、身分差の解消した點は注目される<sup>(7)</sup>。

本稿は、明初に特權的諸身分が確立し、中期以降に形成された廣汎な諸階層の内部において、舉人・貢生・監生層が進士資格の偏重によって、選任・考課の上で差別され、昇進を阻害された情況を史料上に確認したのち、各級資格より成るそれら諸階層が、各級地方官、特に父母・親民官として直接人民を統治する知縣以下の縣官ポスト<sup>(8)</sup>に如何なる比率で

存在したかについて、清代地方志の職官條より作成した統計表に據つて清代のそれと比較しながら、明代官場に貫徹したポストに對應する資格の固定化現象、並びに清代選任制の明代とは際立った特色のもつ意義を検討したものである。

# 一 選任・考課における進士偏重の諸情況

崇禎六年（一六三三）、池州府貴池縣の副榜舉人吳應箕は、嘉善縣出身の内閣大學士錢士升に宛てた書簡（樓山堂集卷十一、上嘉善錢相公書發酉）において、自己を含む不遇な立場の諸出身者を代辯するかのように次のように述べた。

官を設けて資格を立つるは、原より人の奔競の心を抑えて其の積久の效を收むるゆえん。これを今に行えば、則ち害に勝えず。

官僚の任用に當り資格＝出身を條件とした本來の趣旨は、榮達の權化となることを防ぐ禁欲的觀點より、資格に基づく終身身分に相應したポストから出發させるが、授官後の政績次第で出世欲を満足させようとする點にあった。現在この方法は（進士偏重の矛盾を來したので）、百害あつて行えない、という。

明初の任官コースとしては、在野知識人より選ぶ薦舉、科舉・歲貢監生、吏員の三途があつた。狹義には、吏員を除いて薦舉、科舉、歲貢監生を三途と稱する場合が多かつた。政權の草創期には薦舉、次いで監生が重要視されたが、洪武二十六年以降は科舉出身者が重要視された。薦舉出身者は天順年間に姿を消したので、成化年間以後の三途とは、科舉、歲貢監生、吏員の三出身者を指すようになった。<sup>(8)</sup>しかし、明代後期以降、「進士偏重して舉人甚だ輕し」（高拱・高文襄公全集卷三四、掌銓題稿卷五、議處科目人材以興治道疏。以下、人材疏と略記）という資格偏重の是正を求めて提起された「三途並用議」（李廷機・李文節集卷十一、館課二）の三途とは、殆どが進士・舉人（科）・貢生（貢）の三資格を指していた。

進士資格が選任・考課等において殊更に優遇＝偏重される傾向は、嘉靖期以降に顯現した。張居正は、新刻張太岳先生文集卷一八、雜著において、

宣德以後、獨り進士の一科のみを重んず。郷舉・歲貢といえども、敢えてこれと抗衡すること莫し。

と述べて、進士偏重は既に宣德以後に始まった、と言う。谷光隆氏は、「國初の薦舉は官僚組織の量的充足を目的として行われ、その必然的結果として出身を重視しなかったが、宣德以來の保舉は官僚組織の質的向上を目的として行われ、その必然的結果として出身を重視することとなった<sup>(9)</sup>」と言う。續いて谷氏は、同條で次のようにも言う。國初以來の選除である「循資陞授」即ち年功序列では「地方官は賢否混淆して人民の害を被る者が少なくなかった」ので、質的向上つまり能力本位に切替える必要が生じ、この頃までに進士で獨占された六部尙書・都察院都御史・内閣大學士等三品以上の九卿大臣の奏保、即ち保薦學を上奏する體制が生れた。だが保舉の對象は勢い進士・舉人・監生の順序に固定化し、授官の對象が特に二楊（士奇・溥）など舉主の地位に左右される人的關係の惡風が瀰滿した。その結果、知縣の保舉は正統七年に、次いで知府の保舉が、最後に天順八年方面官の保舉が廢止され、以後は吏部の自擢となった、と。だが、進士出身者が舉人・監生出身者に比べて文藝の才能に長じてはいても、人民の被害は、むしろ操守の廉潔や統治能力の何如に係わっていたのであり、直接に進士質的に能力の向上した者と評價することは問題である。宣德と天順年間の京官による地方官に對する保舉は、科舉制の整備過程で起きた問題であったが、保舉廢止後においても銓選における科舉の諸身分固定化の現象は昂進していった。

知縣の保舉廢止後の明實錄・正統十四年十二月壬申の條で、兵科給事中劉珝は、「方今の用人は、ただ進士・監生の二途のみ」と述べたが、舉人を記していない。前年の會試受験者は千三百人であり、合格者は百五十人で、副榜と落第者の合計は千百五十人であった。<sup>(10)</sup>この中の若干の副榜舉人は府州縣の教官を授けられ、知縣への昇官をめざした。落第舉人は歸郷するか國子監に入學して舉人監生となり、一定期間の學業修得後に教官を授けられた。劉珝が二途のみというのは、少くとも明代前半の舉人は直接には知縣に任官できなかったことによる。これら不分明な舉人・監生層の知縣に占める割合は、確實な進士のケースより推定できる。

表1 嘉靖・万暦期の進士初任官のポストの配分比率

| 甲榜  | 人 員<br>(230人) |     | 百分比<br>(%)  | 観政進士後の初任官<br>(aは嘉靖を, bは<br>萬曆を示す) | 官 品        | 甲榜  | 人 員<br>(373人) |    | 百分比<br>(%) |      |
|-----|---------------|-----|-------------|-----------------------------------|------------|-----|---------------|----|------------|------|
| 1 甲 | 2             |     | 0.8         | b 翰林院修撰 a                         | 従6品        | 1 甲 | 3             |    | 0.8        |      |
|     |               |     |             | b 翰林院編修 a                         | 正7品        |     |               |    |            |      |
| 2 甲 | 32            | 36  | 15.6        | 翰林院庶吉士 a                          | 未入流        | 2 甲 | 13            | 22 | 5.8        |      |
|     |               |     |             |                                   |            | 3 甲 | 9             |    |            |      |
| 3 甲 | 3             |     |             |                                   | b 北京六部主事 a | 正6品 | 2 甲           | 43 | 75         | 20.1 |
| 2 甲 | 1             |     |             |                                   | b 南京六部主事 a |     | 3 甲           | 19 |            |      |
|     |               |     |             |                                   | 2 甲        | 13  |               |    |            |      |
| 2 甲 | 1             | 12  | 5.2         | b 大理寺評事 a                         | 正7品        | 3 甲 | 5             |    | 1.3        |      |
| 3 甲 | 11            |     |             |                                   |            |     |               |    |            |      |
| 3 甲 | 1             | 0.4 | b 太常寺博士 a   | 従7品                               |            |     | 2             |    | 0.5        |      |
|     | 4             | 1.7 | b 中 書 舍 人 a |                                   |            |     | 2             |    | 0.5        |      |
|     |               | 18  | 7.8         | b 行人司行人 a                         | 正8品        | 2 甲 | 1             | 33 | 8.8        |      |
|     |               |     |             |                                   | 3 甲        | 32  |               |    |            |      |
|     |               |     |             | 都察院都事 a                           | 正7品        |     | 1             |    | 0.5        |      |
| 3 甲 | 1             |     | 0.4         | b 上林苑監典簿                          | 正9品        |     |               |    |            |      |
| 2 甲 | 1             | 6   | 2.6         | b 六部観政進士<br>(卒・終養)                |            |     |               |    |            |      |
| 3 甲 | 5             |     |             |                                   |            |     |               |    |            |      |
| 2 甲 | 1             | 7   | 3.0         | b 府 教 授                           | 従9品        |     |               |    |            |      |
| 3 甲 | 6             |     |             |                                   |            |     |               |    |            |      |
| 2 甲 | 4             |     | 1.7         | b 知 州 a                           | 従5品        | 2 甲 | 20            | 21 | 5.6        |      |
|     |               |     |             |                                   |            |     | 1             |    |            |      |
| 3 甲 | 25            |     | 10.8        | b 府 推 官 a                         | 正7品        | 3 甲 | 39            |    | 10.4       |      |
|     | 114           |     | 49.5        | b 知 縣 a                           |            |     | 169           |    | 45.3       |      |

出典 a 『嘉靖癸丑(32年, 1553)科進士同年便覧録一卷』

b 『萬暦三十八(1610)年庚戌科序齒録一卷』

※ 進士の初任官以後の陞遷(省略)については, 後掲表4を参照。



らず」と進士を全面的には信用しない嘉靖帝は、舉・貢との併用を幾度となく命令していたが、吏部司官は遵行してはいなかった。<sup>(11)</sup>

嘉靖期の葛守禮は、葛端肅公集卷一、添進士以裕牧疏において、前述の進士外任官の枠を擴げよと次の要請を行なった。

今、天下の州縣は將に二千に及ばんとす。而るに進士を以て任ずる者は二百に滿たず。腹裏の大省は猶お十數人、或いは五、六人のごとし。南北邊方の省分は則ち一、二人といえども亦た得るべからず。要郡衝邑は已むを得ず舉人を以て職に充つ。又得べからずんば監生を以てこれを足す。舉人は任に稱わざる者固より已に十の五六。而るに監生の以て職を擧ぐべき者は百に二、三もなし。

天下の州・縣が二千というのはオーバーな表現で、既述のように實際は州二三四、縣千百七十一の計一四〇五であった。進士出身の知州・知縣は二百未滿であるとの表現は、既述の統計數字の進士新任官についてはほぼ一致する。なお實錄には、進士不足に對して、嘉靖末年、その増額を要請した上疏に、知州・知縣の各出身者に占める進士は二、三割に過ぎないとみえるが、<sup>(12)</sup>この表現は、新・舊進士の合計額としては妥當する。右の葛守禮は、舉人・監生出身者で要衝の州縣長吏に任命された者の中、舉人の五、六割、監生の九七〇八分は職務能力に劣ると極論して進士新任官の増員を要請した。舉人・監生出身者を蔑視する葛守禮の進士禮讃の根據には、權威に弱い人民はまだ赴任もしない地方官の出身を進士と聞いただけで既に信賴服従してしまうものだ、との甚だ思い上った認識があった。<sup>(13)</sup>問題の任地についての文言は、進士新任官は内地の大きな省や南北邊疆の省の中の行政・軍事的に重要な知州・知縣に任命されていたことを窺わせる。同時に文言は、要衝の知州・知縣には本來舉人・監生は補充されるべきではない、との認識も示す。

右の點については、前述萬曆期の李廷機「三途並用議」に、

今、人を銓ぶに、おおむね進士は界りに鉅者、繁者、中土者を以てす。科貢は界りに小者、簡者、退陬者を以て

す。

とあって、進士出身者は内地の豊かで行政上重要な大縣に繁縣に任命されるが、舉人・貢監生出身者は僻地の瘠せた政治的重要度の低い小縣に任命された、という。進士偏重の事態は、農民起義や異民族の侵入に直面して緊迫化した崇禎期の劇區や邊境では、逆に無能なはずの舉人・貢生が起用され、有能な進士は内地の安全地帯に任命されようと逃げの姿勢をみせるという深刻な矛盾に轉化していた。<sup>(14)</sup>

嘉靖期に顯現した進士偏重の劃期は、選任制に連繫する考課制においてむしろ明瞭であった。明實錄・嘉靖二十二年十一月甲寅の條には、進士以外の出身者は、治績・操守が立派でも、一たび上官のご氣嫌を損ねでもしたら、その都度中傷を受けて昇進はおぼつかない<sup>(15)</sup>、と言う。又、隆慶五年六月の高拱の上疏は、「進士の治績の最下なる者は、猶お舉人の治績の最上なる者より勝れるがごときなり」（人材疏）と言う。萬曆期の李廷機「三途並用議」には、

進士は稍稍その官を能<sup>よく</sup>すれば上考を豫う。即ち能せざるも猶おこれを庇うがごとし。科・貢は一たび當らずんば下考に寘む。即ち能するも猶おこれを抑えるがごとし。

との露骨な進士偏重の指摘が見える。

天啓期の趙南星は、進士集團の利己主義について、進士身分で官界を游泳する者同士は、同郷の人や親戚、弟子や昔の部下、家族ぐるみの交際をする親しい人、といった複雑な官僚社會の情實關係で人脈を構成しており、たとえ相手が貪婪な官僚であることを知悉していても、決して口外はしなかった<sup>(16)</sup>、と言う。こうした如何ともし難い進士偏重の實態については、天啓四年の紋題を記す馮夢龍・警世通言卷一八、「老門生三世報恩」に見える、巡按御史の成績査定が貪婪酷薄な進士出身地方官を見逃し、逆に舉人・貢生出身者に進士の罪の穴埋めまでさせる現實に絶望した老學生の「死んで閻魔大王の前に出て大聲で不公平を訴えて、あの世で出世した方がましだよ」との怒りの叫びがあり、それは時代情況を端的に象徴していた。



選任・考課で進士集團より學位歴社會の利己的差別に泣かされた舉人・貢生は、宗族に功名をもたらすべき出世が絶望的となるや、蓄財に邁進せざるを得なかった。「縣令は舉・貢多く、日暮れて途窮まれば貪得あるのみ」(樓山堂集卷十二、眞陽驛與汝寧守王乾純先生書丁卯)とか、「佐貳官は率ね舉・貢・監生に出身する者多く、日暮れて途に窮し、既に爲民の念なく又治民の才に乏し。撫理あるも貪穢にして治まらず」(明實錄・萬曆三十二年五月丙子)と見えるのは、そうした舉・貢の營みの一端を表現していた。<sup>(18)</sup>こうした資格偏重の生む地方官の貪官化による吏治の腐敗は、民生の困苦へと必然化していった。

## 二 地方志の職官における資格固定化の實態

### 1 縣缺の繁簡と進士の繁缺への優先配分

府州縣の統治上の難易度の準則である「繁簡之例」は、明實錄・洪武十四年十月壬申の條に官僚考課の枠組みとして現われた。<sup>(19)</sup>それによれば、統治の繁難を意味する「事繁」の行政區劃は、田糧十五萬石以上の府、田糧七萬石以上の州、田糧三萬石以上の縣と、王府や都司・布政司・按察司の所在地、馬隊の駐屯所、驛道の通る所、邊境の要衝や首都の官署であった。統治の比較的簡易な「事簡」の行政區劃は、田糧十五萬石以下の府、田糧七萬石以下の州、田糧三萬石以下の縣や僻地であった。

税糧額主體の「繁簡之例」は、地域差や行政實務の複雑化、さらには統治矛盾の激化と俱に當然變化したであろう。だが、弘治十一年(一四九八)刊・吏部條例の「計開給由紙牌違礙事例」には、「繁簡則例に照らして一級を降す」などと見えるので、この時点までは洪武の「繁簡之例」が活きていた可能性がある。しかし、地方官特に縣缺に衝・繁・疲・難の四等の「字」が現われる端緒は嘉靖末年であった。四等の字が確定するのは、後述の調缺の制定と同時に、雍正六年(一

七二八)三月の廣西布政使郭洪の上疏によつてであり、字の組合せによつて四字缺||最要、三字缺||要、二字缺||中、一字缺||簡や、無字缺に整備された。<sup>(20)</sup>四字缺の四字とは、雍正硃批諭旨卷一五・郭鎮・六年三月一九日條によれば、「交通頻繁なることを衝、政治業務激しいことを繁、税糧の滯納多きことを疲、風俗純朴ならず犯罪事件多きことを難の字でそれ表現」したものであった。<sup>(21)</sup>

缺の構成要件である衝・繁・疲・難の四等の字の端緒形態は、元の朱思本の原圖を明の羅洪先(念菴)が増纂して、嘉靖四十年(一五六一)に浙江布政使胡松の手で刊補された『廣輿圖』(萬曆七年重刊本)に現われた。但し、表2の廣輿圖の段階では、一縣の繁簡度が煩については上・中(冲)・下、簡(僻)については上・中・下と各おの三ランクに分けられてはいるが、煩・簡の具體的説明がない。

隆慶元年(一五六七)の吏部尚書楊博の「議天下郡縣繁簡疏」(皇明奏疏類鈔卷四〇、輿圖類)には、「郡縣の如きは、向來繁簡・衝僻・難易を分たざれば、則ち勞する者は勸むる所なく、逸るる者は懲しむる所なく、繁を避けて簡を求め、衝を避けて僻を求め、難を避けて易を求む」という如く、吏治の實績を上げる觀點より、官僚考課の上に税糧主體の洪武の舊則例の繁簡とは異なる廣輿圖系統の繁簡に加えて、更に衝僻・難易の二要件を採用すべきことが提起されて裁可された點がみえる。今回、全國の府州縣は各おの三等級に區別され、「陞擢」と毎年の「行取」の際には、上等・中等・下等の府州縣缺のランク、年功(歲月之運速)、任官時の資格(官資之高下)、「考語・獎薦」という四條件を總合評價せよとの詔が下った。府州縣缺の上中下三等のランクの認定要件については、「邊方殘破、遠方困憊、盜賊猖獗、災沴頻仍、衝繁難支、刁疲難治は上と爲し、稍や易きは中と爲し、易きは下と爲す」というように、六種の要件があげられた。これらの要件は、表2の大明官制大全や大清仕籍全書の缺の認定要件である衝・繁・疲・難の實體をほぼ示している。六種の要件に該當する地域としては、北直隸・浙江・江西・福建・湖廣・廣東・廣西・貴州の九直省の説明がある。しかし、こうした三等制の府州縣のポストが定着したかという點は、甚だ疑問である。その理由としては、萬曆十三年(一五八五)脱稿の

重修會典に、前述の衝・繁・疲・難に基づく三等の府州縣缺の等級が見えず、依然として繁縣と簡縣の間の更調制が行われていた點、増修條例備考卷二、選官抽籤註缺以示至公にみえる萬曆二十二年八月の吏部の題本に、「諸缺の中に煩簡あり」とみえる點、さらには萬曆三十八年庚戌科序齒錄一卷にも、更調は繁縣・簡縣の間で行われていた點があげられる。

だが、具體的内容をもつ衝・繁・疲・難のほぼ明確な要件に基づく繁縣・簡縣の區分が出來上るのは、廣輿圖より四半世紀後、江西臨江府新喻縣丞の陶承慶が校正し、吉安府廬陵縣未學の葉時用が増補して、萬曆十四年（一五八六）に寶善堂より刊行された重刻増補京板『大明官制大全』（大明一統文武諸司衙門官制）においてであつた。表2に摘記した大明官制大全では、里甲の「編戶」||里數を記している點は廣輿圖を踏襲しているが、縣缺の有無、土「地」の要衝の所||衝、行政「事」務の繁劇な所||繁、糧・差が重く逋負の多い所||疲、「民」の刁・頑・貧・疲、「俗」の狡猾や「多盜」「水患」「訟繁」の所||難の各内容がほぼ明確化した。

表2「明・清各縣の統治上の繁簡度」中の大明官制大全にみえる明代25縣は、繁縣・簡縣の何れに判定したらよいか。これは、廣輿圖の煩簡度及び萬曆三十八年（一六一〇）庚戌科序齒錄一卷の兩者、特に調繁・調簡の表現が現われる後者に據つて、表2に關係ある各省出身の進士初任知縣が調ぜられた繁縣とは、一體四字の字數の何字以上を指していたか、という點から推定したい。この點を表3「表2の直省に關係ある繁縣の事例」で確認した場合、棗強縣が一字である以外、他の16縣は全て二字以上が繁縣に相當する。これを基準に繁・簡の縣缺を推定したのが表2の大明官制大全の缺の項である。明代25縣の中、繁縣は19、簡縣は6を數えるが、地域別では、華中・華南は殆ど繁縣であり、華北は繁簡相い半ばしている。

既述の雍正六年に確立した衝・繁・疲・難の四等の字の組合わせに據る清代26縣の固定化された缺は、清・卿雲閣主人編の乾隆二十八年（一七六三）刊『大清仕籍全書』に據つて表2にまとめた。大清仕籍全書には、缺の固定化の要件である四等の字についての内容までは最早や記されていないが、地丁銀・漕糧・倉穀・養廉銀・雜稅銀や乾隆二十八年時の

\* 知縣の出身は、表5の地方志の職官條に據る。

| 大明官制大全 (1586年刊)  |                           |            |                 |           |          |         |     |          |                | 廣輿圖 (1561年刊)          |            |
|------------------|---------------------------|------------|-----------------|-----------|----------|---------|-----|----------|----------------|-----------------------|------------|
| 缺<br>繁・簡<br>(推定) | 萬曆14<br>年該縣<br>知縣の<br>出身* | 編戶<br>(里數) | 官<br>員          | 缺の認定要件    |          |         |     |          |                | 煩<br>〔上中下〕・簡<br>〔上中下〕 | 編戶<br>(里數) |
|                  |                           |            |                 | (衝)       | (繁)      | (疲)     | (難) |          |                |                       |            |
|                  |                           |            |                 | 地         | 事        | 糧       | 差   | 民・俗<br>訟 | 盜・患            | 治                     |            |
| 簡                | 貢監                        | 27         | 無丞              | 饒         |          |         |     | 富        | 多盜             |                       | 中 20       |
| 繁                | (不明)                      | 12         | 〃               | 狹         | 冲        | 重       |     | 刁・疲      |                |                       | 裁冲 13      |
| 簡                | 舉人                        | 36         | 〃               | 僻饒        |          |         |     | 淳        |                |                       | 僻簡中 39     |
| 簡                | 進士                        | 26         | 全設              | 僻         | 簡        |         |     | 淳        | 地連二省<br>山歟不時竊突 |                       | 僻簡中 23     |
| 繁                | 進士                        | 98         | 二丞<br>全設        | 藩封<br>衝   | 煩        |         | 重   | 疲        |                |                       | 煩冲上 98     |
| 繁                | 進士                        | 171        | 全設              | 藩封<br>頗饒  | 繁        |         |     | 淳        |                |                       | 冲煩上 177    |
|                  |                           |            |                 |           |          |         |     |          |                |                       |            |
| 繁                | 進士                        | 55         | 全設              | 衝         | 繁        |         |     |          |                |                       | 煩上 55      |
| 繁                | 進士                        | 668        | 三丞<br>全設        | 濱江帶河<br>僻 | 繁        | 多       | 重   |          | 難治             |                       | 僻中 950     |
| 繁                | 選貢                        | 20         | 無簿              |           | 冲        | 欠       | 煩   | 貧・疲      | 水患             |                       | 貧冲煩 46     |
| 繁                | 進士                        | 649        | 三丞<br>全設        | 濱海帶河      |          | 多       | 重   | 繁        |                |                       | 上上 600     |
| 繁                | 舉人                        | 37         | 全設              | 頗衝        | 繁        |         |     | 頑        | 野多盜            |                       | 冲 37       |
| 繁                | 進士                        | 305        | 二丞<br>全設        |           | 繁        | 逋負<br>多 |     | 狡悍       | 俗澆             | 難                     | 上 309      |
| 繁                | 進士                        | 161        | 三丞<br>全設        | 濱海<br>地瘠  |          |         |     | 頑        | 民・灶・軍<br>衛雜處   |                       | 僻中 160     |
| 繁                | 進士                        | 270        | 全設              | 水陸之衝      | 供應<br>浩繁 |         |     | 頗淳       |                |                       | 煩上 253     |
| 簡                | (不明)                      | 22         | 〃               |           |          |         |     | 民饒<br>俗狡 |                |                       | (記載なし) 22  |
| 繁                | 舉人                        | 52         | 〃               | 衝         | 煩        |         |     | 淳        |                | 易治                    | 冲煩 52      |
| 繁                | 進士                        | 94         | 二簿<br>全設        | 〃         | 繁劇       |         |     | 疲・刁      | 邊江多盜<br>開有水患   |                       | 冲煩 86      |
| 繁                | (不明)                      | 4          | 無丞              | 頗衝        | 供應<br>煩  |         |     | 刁繁       | 亂              |                       | (記載なし) 4   |
| 簡                | 舉人                        | 60         | 全設              | 僻         |          |         |     |          | 經流寇            |                       | 冲上 60      |
| 繁                | (不明)                      | 136        | 〃               | 衝         | 煩        |         |     | 饒        |                |                       | 煩冲 150     |
| 繁                | 進士                        | 177        | 〃               | 衝         | 繁        |         |     | 饒        |                |                       | (記載なし) 199 |
| 繁                | (不明)                      | 101        | 〃               | 濱海        | 繁劇       |         |     | 殷・疲      | 近被倭患           |                       | 上 142      |
| 繁                | 進士                        | 140        | 〃               |           | 繁劇       |         |     | 淳        |                |                       | 上 139      |
| 繁                | 進士                        | 138        | 〃               | 瀕海        |          |         |     | 饒        | 多寇             |                       | 煩冲上 238?   |
| 簡                | (不明)                      | 34         | 無簿<br>有土官<br>典史 |           |          |         |     | 頗富庶      | 逼近山徭<br>時被警擾   |                       | 上中 36      |

表2 明・清各縣の統治上の繁簡度

|         |           | 大清仕籍全書 (1763年刊) |        |                      |                           |              |                |                       |               |        |  |
|---------|-----------|-----------------|--------|----------------------|---------------------------|--------------|----------------|-----------------------|---------------|--------|--|
|         |           | 缺               | 缺の認定要件 | 徴銀(兩)<br>△解銀<br>・地丁銀 | 米(石)<br>△米麥<br>・糧         | 倉穀(石)<br>・額穀 | 養廉銀<br>(兩以下切捨) | 雜稅銀<br>△折銀採辦<br>・牙當畜地 | 乾隆28年の該縣知縣の出身 |        |  |
| 北直隸     | 寧(眞定府趙州)  | 簡               | (記載なし) | ・ 26,482             |                           | 14,000       | 800            | 辦公                    | 100<br>254    | 庚午(進士) |  |
|         | 樂(眞定府城定縣) | 〃               | 衝      | ・ 16,213             |                           | 14,000       | 800            | 辦公馬90匹                | 100<br>365    | 丁巳(進士) |  |
| 河南      | 臨(彰德府漳德縣) | 〃               | 繁      | ・ 58,607             | 7,575                     | 20,000       | 1,200          |                       | 700           | 監生     |  |
|         | 商(汝寧府光州)  | 〃               | 難      | ・ 14,920             |                           | ・ 20,000     | 1,200          |                       | 857           | 監生     |  |
| 山東      | 歷(濟南府附郭)  | 要               | 衝繁難    | 64,291               | △ 12,200                  | 2,000        | 2,000          |                       | 540           | 貢生     |  |
|         | 長(潞安府附郭)  | 中               | 繁難     | (糧銀) 62,810          |                           | ・ 16,000     | 800            |                       | 1,900         | 壬申(進士) |  |
| 山西      | 汾(汾州府附郭)  | 要               | 繁難     | (糧銀) 70,099          |                           | ・ 16,000     | 850            |                       | 7,100         | 副榜(舉人) |  |
|         | 長(西安府附郭)  | 最要              | 衝繁疲難   | ・ 42,520             | ・ 1,024                   | ・ 75,000     | 600            | ・                     | 470           | 舉人     |  |
| 陝西      | 嘉(蘇州府附郭)  | 中               | 疲難     | △ 61,222             | 9,683                     | 20,000       | 1,200          | △                     | 1,178         | 壬申(進士) |  |
|         | 清(淮安府附郭)  | 簡               | 衝      | △ 2,502              | 3,526                     | 20,000       | 1,200          | △                     | 69,221        | 辛未(進士) |  |
| 南直隸(江蘇) | 上(松江府附郭)  | 要               | 繁疲難    | △ 69,221             | (漕白二米共) 10,464            | 20,000       | 1,200          |                       | 295           | 貢生     |  |
|         | 盱(鳳陽府泗州)  | 中               | 疲難     | ・ 22,518             | 2,904                     | 17,000       | 800            |                       | 1,982         | 拔貢     |  |
| 安徽      | 歸(湖州府附郭)  | 要               | 繁疲難    | ・ 104,431            | (漕白二米共) 65,170            | 17,169       | 1,600          |                       | 882           | 舉人     |  |
|         | 海(嘉興府附郭)  | 中               | 繁難     | ・ 64,310             | (漕白二米共) 39,953            | 14,167       | 1,200          |                       | 312           | 貢生     |  |
| 浙江      | 清(臨江府附郭)  | 要               | 衝疲難    | ・ 46,580             | (漕米) 25,110<br>(兵米) 1,304 | 8,100        | 1,200          | 馬20匹                  | 580           | 己未(進士) |  |
|         | 湘(潭州府附郭)  | 要               | 衝繁難    | 22,780               | 3,435                     | 49,660       | 1,000          |                       | 30            | 例監     |  |
| 江西      | 衡(衡州府附郭)  | 最要              | 衝繁疲    | 13,029               | 6,030                     | 52,740       | 1,200          |                       | 39            | 壬申(進士) |  |
|         | 黃(黃州府附郭)  | 要               | 衝繁難    | 46,634               | 9,281                     | 9,200        | 1,200          |                       | 38            | 戊辰(進士) |  |
| 湖北      | 萬(夔州府附郭)  | 中               | 衝繁     | 3,564                |                           | 9,750        | 600            |                       | 57            | 保舉     |  |
|         | 寧(汀州府附郭)  | 要               | 繁疲難    | 18,415               |                           | ・ 50,288     | 1,000          |                       | 373           | 監生     |  |
| 福建      | 建(寧州府附郭)  | 中               | 衝疲     | 29,152               | 2,254                     | ・ 19,085     | 1,100          |                       | 1,761         | 舉人     |  |
|         | 建(寧州府附郭)  | 中               | 衝難     | 25,880               | 3,256                     | ・ 19,913     | 1,100          |                       | 2,869         | 丙辰(進士) |  |
| 廣南      | 潮(潮州府附郭)  | 要               | 繁疲難    | 27,547               |                           | 70,000       | 1,000          |                       |               | 壬子(進士) |  |
|         | 番(廣州府附郭)  | 要               | 衝繁疲難   | 44,507               |                           | 100,000      | 1,500          |                       |               | 舉人     |  |
| 7       | 新(會州府附郭)  | 要               | 繁疲難    | 33,573               |                           | 40,000       | 1,000          |                       |               | 貢生     |  |
|         | 貴(潯州府附郭)  | 中               | 繁難     | 17,124               | 5,957                     | 20,283       | 1,181          |                       |               | (不明)   |  |
| 東廣西     |           |                 |        |                      |                           |              |                |                       |               |        |  |
|         |           |                 |        |                      |                           |              |                |                       |               |        |  |

表3 表2の直省に關係ある繁縣の事例—調繁知縣（進士）の場合—

| 繁 縣 (17例) | 調繁<br>知縣   | 編戶<br>(里) | 缺 の 認 定 要 件 |                 |       |     |     |         |
|-----------|------------|-----------|-------------|-----------------|-------|-----|-----|---------|
|           |            |           | 設官<br>(衡)   | (衡)             | (繁)   | (疲) | (難) |         |
|           |            |           | 地           | 事・糧・差・民・俗・訟・盜・治 | 務・賦・徭 |     |     |         |
| 北直隸       | 涿強縣(眞定府冀州) | 楊呈秀       | 20無簿        | 饒               | 簡     |     |     |         |
|           | 固安縣(順天府)   | 孫織錦       | 37無丞        | 頗饒              | 繁     | 重   |     |         |
| 河         | 洛陽縣(河南府附郭) | 文翔鳳       | 86全設        | 衡               | 繁     | 重   | 多   | 難治      |
|           | 靈寶縣(陝州)    | 石應嵩       | 45全設        | 衡               |       |     |     | 民刁      |
| 南         | 汝陽縣(汝寧府附郭) | 楊巨鯨       | 33無丞        | 軍民雜處            | 繁     |     |     | 俗刁      |
|           | 歷城縣(濟南府附郭) | 張翼明       | 98二丞全設      | 有藩封<br>衡        | 煩     | 重   |     | 民疲      |
| 山東        | 陽曲縣(太原府附郭) | 趙鵬程       | 78全設        |                 | 繁     |     |     | 疲       |
| 山西        | 榆次縣(太原府)   | 葛如麟       | 66全設        | 肥               | 繁     |     |     | 俗刁      |
| 陝西        | 長安縣(西安府附郭) | 李燁然       | 55全設        | 衡               | 繁     |     |     |         |
| 南直隸       | 丹徒縣(鎮江府附郭) | 趙昌期       | 240全設       | 濱江帶河            | 繁劇    |     |     | 疲 多盜    |
|           | 華亭縣(松江府附郭) | 鄭元昭       | 811三丞全設     | 濱江帶河            | 繁     | 多   | 重   | 民刁      |
| 浙江        | 錢塘縣(杭州府附郭) | 龔之伊       | 160全設       | 衡               | 繁     |     |     | 俗奢狡雜 難治 |
| 江         | 清江縣(臨江府附郭) | 李茂英       | 270全設       | 水陸之衡            | 繁     |     |     | 頗淳      |
|           | 廬陵縣(吉安府附郭) | 明時舉       | 603全設       | 衡               |       |     | 繁   | 民疲 健訟   |
| 江西        | 新建縣(南昌府)   | 馬鳴起       | 204全設       | 衡地窪             | 繁     |     |     | 民疲 多水災  |
| 福建        | 蘭谿縣(金華府)   | 莊起元       | 241全設       | 水陸衝劇            |       |     |     | 頗健訟     |
| 廣東        | 順德縣(廣州府)   | 施 樑       | 157全設       | 頻海              | 煩     |     |     | 民富      |

典據：『萬曆三十八年庚戌科序齒錄一卷』

『大明官制大全』

知縣の出身が記されている。清代26縣の中、最要缺の縣は2、要缺の縣は11、中缺の縣は8、簡缺の縣は5を數え、中缺(二字)以上が明代の繁縣に相當している。明・清を通じて繁・簡に變化のみられたのは、樂城・清河・相潭・寧化・貴の五縣に過ぎない。

次に、明代の繁縣・簡縣、清代の最要・要・中・簡缺の各縣に就任した知縣の昇官・更調の動向をみよう。表2の大明官制大全の刊行された萬曆十四年時の知縣の出身を各地方志の職官條より檢出した場合、明代25縣の出身不明者を除いた繁縣15縣中の12縣は進士で占められ、同じく簡縣4縣は進士一人、舉人二人、貢生一人で占められている。こうした繁・簡の知縣缺における各出身の配分は、明代の吏部による地方官選任過程(銓選)の特徴を示す。雙月(偶數月)の大選で知縣(又は推官)に任命され、或は單月(奇數月)の急選で中央の科・道・六部司官に行取される進士・舉人・貢生・監生出身者の中、進士出身の知縣に限定した場合、選任時における繁缺・簡缺の割合と、轉任時における統治能力の有無に基づくと同一品級内の繁缺・簡缺間の鞍替えを意味する更調させられた者の割合とは、表4の通りであった。

嘉靖癸丑(三十二年)科進士同年便覽錄一卷||aと、萬曆三十八年庚戌科序齒錄一卷||bとより作成した表4「同年進士の知縣就任繁簡比率」によれば、知縣を一期(a七二・一%、b五〇・八%)、二期(a二六・六%、b四二・九%)、三期(a一・一%、b四・三%)と勤めた者の中、進士初任官で繁縣の知縣に就任した者は、aでは $\frac{122}{169} \times 100 = 72.1\%$ を占め、bでは $\frac{69}{112} \times 100 = 61.6\%$ を占めていた。これは、後述する外補制成立後の清代の進士初任官のそれとは全く逆の傾向を示していた。簡縣の知縣に就任した者は、aでは二一・八%、bでは二五%に過ぎなかった。この中、簡縣より繁縣へ、又は繁縣より簡縣へ更調された者は、aでは $\frac{18}{169} \times 100 = 10.6\%$ 、bでは $\frac{20}{112} \times 100 = 17.8\%$ に過ぎなかった。

問題は、表4の進士出身知縣の繁簡互調の者がaでは一〇・六%、bでは一七・八%に過ぎない點である。この事實と、簡縣だけに在任した者がa  $\frac{29}{169} \times 100 = 17.1\%$ 、b  $\frac{17}{112} \times 100 = 15.1\%$ と俱に十數%に過ぎなかった點、並びに繁縣だけに在任した者がa  $\frac{112}{169} \times 100 = 66.2\%$ 、b  $\frac{60}{112} \times 100 = 53.5\%$ と俱に數十%強の高率であった點とを考へ併せた場

表4 同年進士の知縣就任繁簡比率（典拠：『嘉靖癸丑科進士同年便覽錄一卷』『萬曆三十八年庚戌科序齒錄一卷』）

|        |               | 繁  |    |    |    | 小計 (%) |    | 簡              |               |     |     | 小計 (%) |     | 繁    |   |               |             | 小計 (%) |   | 不明 (%) |   | 總計 (%)         |               |               |              |               |               |               |
|--------|---------------|----|----|----|----|--------|----|----------------|---------------|-----|-----|--------|-----|------|---|---------------|-------------|--------|---|--------|---|----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
|        |               | a  | b  | a  | b  | a      | b  | a              | b             | a   | b   | a      | b   | a    | b | a             | b           | a      | b | a      | b | a              | b             |               |              |               |               |               |
| 知縣一期   | 知縣(卒)         | 5  | 12 |    |    | 5      | 12 | 1              | 5             |     |     | 1      | 5   |      |   |               |             |        |   | 1      |   | 7              | 17            |               |              |               |               |               |
|        | 知縣(致仕)        | 9  | 7  |    |    | 9      | 7  | 3              |               |     |     | 3      |     |      |   |               |             |        |   |        | 2 | 12             | 9             |               |              |               |               |               |
|        | 知縣(左遷)        | 5  | 5  |    |    | 5      | 5  | 1              |               |     |     | 1      |     |      |   |               |             |        |   |        | 1 | 5              | 7             |               |              |               |               |               |
|        | 知縣(改教)        |    | 4  |    |    |        | 4  | 3              |               |     |     | 3      |     |      |   |               |             |        |   |        | 1 |                | 8             |               |              |               |               |               |
|        | 知縣(行取)        | 72 | 8  |    |    | 72     | 8  | 22             | 8             |     |     | 22     | 8   |      |   |               |             |        |   | 4      | 1 | 98             | 17            |               |              |               |               |               |
| 小計     |               | 91 | 36 |    |    | 91     | 36 | 26             | 17            |     |     | 26     | 17  |      |   |               |             |        |   | 5      | 5 | 122<br>(72.1%) | 58<br>(50.8%) |               |              |               |               |               |
| 知縣二期   | 知縣→左遷→知縣      |    |    | 3  |    |        | 3  |                |               | (1) | (1) | 1      | 1   | 1    |   |               |             | 1      |   |        |   | 1              | 5             |               |              |               |               |               |
|        | 知縣→丁憂→起復知縣    |    | 13 | 9  |    | 13     | 9  |                | 3             | (1) | (2) | 4      | 2   | 5    | 2 |               |             | 5      | 2 | 1      | 3 | 23             | 16            |               |              |               |               |               |
|        | 知縣→調知縣        |    | 6  | 6  | 1  |        | 7  | 6              |               | (6) | (5) | 6      | 5   | 4    | 3 |               |             | 4      | 3 | 4      | 2 | 21             | 16            |               |              |               |               |               |
|        | 知縣→調繁知縣       |    |    | 6  |    |        | 6  |                |               |     | (3) |        | 3   |      |   |               |             |        |   | 3      |   | 12             |               |               |              |               |               |               |
|        | 小計            |    | 19 | 24 | 1  |        | 20 | 24             |               | 3   | (8) | (11)   | 11  | 11   | 9 | 6             |             |        | 9 | 6      | 5 | 8              | 45<br>(26.6%) | 49<br>(42.9%) |              |               |               |               |
| 知縣三期   | 知縣→調知縣→謫戍→陞知縣 |    |    |    |    |        |    |                |               |     |     |        |     |      |   |               |             |        |   |        |   |                |               |               |              |               |               |               |
|        | 知縣→調知縣→再調知縣   |    |    |    |    |        |    |                |               |     |     |        |     | 1    |   |               |             | 1      |   |        |   | 1              |               |               |              |               |               |               |
|        | 知縣→調知縣→調繁知縣   |    |    |    |    |        |    |                |               |     |     |        |     |      |   |               |             |        |   | 1      |   | 1              |               |               |              |               |               |               |
|        | 知縣→丁憂補知縣→調繁知縣 |    |    |    |    |        |    |                |               |     |     |        |     |      |   | 2             |             | 2      |   | 1      |   | 3              |               |               |              |               |               |               |
|        | 知縣→調繁知縣→丁憂補知縣 |    |    | 1  |    |        | 1  |                |               |     |     |        |     |      | 1 |               |             | 1      |   |        |   | 1              | 1             |               |              |               |               |               |
| 小計     |               |    |    |    | 1  |        | 1  |                |               |     |     |        |     |      | 1 | 1             | 2           | 1      | 3 |        | 2 | 2<br>(1.1%)    | 5<br>(4.3%)   |               |              |               |               |               |
| 總計 (%) |               | 91 | 36 | 19 | 24 | 2      |    | 112<br>(66.2%) | 60<br>(53.5%) | 26  | 17  | 3      | (8) | (11) |   | 37<br>(21.8%) | 28<br>(25%) | 9      | 6 | 1      | 1 | 2              | 10<br>(5.9%)  | 9<br>(8.0%)   | 10<br>(5.9%) | 15<br>(13.3%) | 169<br>(100%) | 112<br>(100%) |

註：〔 〕内は、〔繁→簡〕以下のパートにも歸屬することを意味する。

(a) 嘉靖32年同年進士(373人) (b) 萬曆38年同年進士(230人, 判明分)



合、そこには選任・轉任における進士に對する優遇措置が窺見できる。

要するに、表2の大明官制大全の萬曆十四年時の25縣中の繁缺が殆ど進士で占められていたのは、繁・簡の更調を少數に止めて、進士の大半を繁缺に溫存するという前述の實態を反映したものであったと考えられる。

ところで、繁簡互調の制が行われても、それが撫按の奏請さらには吏部の裁量によって濫發され、官僚政治(吏治)に弊害を來す恐れもあった。<sup>(23)</sup> 特に大選・急選を通じて地方官の銓選を一手に引受ける吏部に對しては、權力をもつ高級官僚(權貴)の請託が激しく、これを杜すために創出されたのが萬曆二十二年八月の吏部尙書孫丕揚の手になる「抽籤之法」所謂の掣籤法であつた。だが能力差のある官僚を、これまた繁簡の地域差のある缺に掣籤で機械的に一律に配分することは、「(缺)」地のために人を擇び、事のために才を擇ぶ<sup>(24)</sup>銓選の主旨に背いていた。萬曆二十六年六月の吏部の覆疏は、全國を東北・東南・西北・西南の四地域(四簡)に分けたのち、「科・貢は前に三名を考選し、進士と共に優缺を掣せしむ。其餘の舉・監は仍お議有るの進士と一概に抽選す<sup>(25)</sup>」というように、優缺||繁縣には殆ど進士を充て、舉人・貢生・監生は僅かに三名だけを充てるといふ掣籤における露骨な進士資格の偏重主義を貫いていた。萬曆野獲編卷十一、掣籤授官には、南北・遠近・原籍等の各區分(簡)が設けられても、官界に有力な「徑竇」のない者は貧乏籤を引かされたこと、特に吏部文選司の擔當官僚は、大選の二、三日前になると籤の長短・大小・厚薄等を外部にはめかす者さえいた、という。春明夢餘錄卷三四、吏部にみえる崇禎三年(一六三〇)六月の河南道試御史王道純の上疏は、次のように言う。『舉人・貢監生ともなれば、一旦引き當てた籤には従うのみである。選司官は進士に對しては數籤を取り出して選ばせた上、該進士が美缺を引き當てると知らん顔で盜ませてしまふが、貧乏籤を引き當てた時は次回の候選を許すことさえした(扣籤の弊<sup>(26)</sup>)』と。

要するに、掣籤法によつても、明代地方官の繁缺は進士に獨占される傾向にあつた。

掣籤法は清代に引き繼がれた。その弊害は本人若しくは吏部の堂官が代理して抽籤を行うことに發端した。康熙年間に

は吏部官僚に贈賄して自己の望む缺を抽籤させる「坐籤の弊」<sup>(27)</sup>が顯著となった。だが近藤秀樹説によれば、この法が弊害を伴いつつも清末まで維持されたのは、權貴の請托を排除して朋黨の暗躍を封ずる點において獨裁君主權力の浸透を一步前進させるものであったからである。しかし、この法の最大の缺陷こそは、適材適所主義が失われて惡平等を生じ、實際政治にマイナスの作用をもたらした點にあった。吏治の肅清に奮勵した雍正帝が、この課題解決のために創出したのが「官僚の人材としての適否を、その官界における實務經驗量の多寡によつて推し測ることを骨子とする外補の制」<sup>(28)</sup>であった。

具體的には、吏部の部選<sup>(29)</sup>月選で機械的に繁簡の缺に振り分けられた州縣官は、明代以來の繁簡互調の法によつて缺を交替させられた。だが、その運用には具體的規定がなく、雍正帝即位の頃には、「調繁調簡は流弊相い沿い、竟に督撫が利を射うの藪となる」という状態になった。この調繁調簡の法を改善したのが、繁缺が空いた場合、地方行政實務に經驗濟みの同一品級の現任官をその缺に横すべりさせ（調補）、そのために生じた空缺を實務未経験の月選の候選官で補充する方法であった。調補のための缺<sup>(30)</sup>調缺を分類登録する方法は、既述のように雍正六年三月十九日、廣西布政使郭鎮によつて「衝・繁・疲・難」の四等の字の組合わせで行うことが建議され、同九年十二月、同知以下知縣に至る各缺は四字缺、三字缺を督撫により「具題調補」させることで實施に移された。近藤氏の所謂調缺の制定と外補の創始である。以後、乾隆十三年には、督撫の具題による陞補つまり下級からの陞任を許す缺である題缺が制定され、題缺は實質歷任年月<sup>(31)</sup>歴俸の五年以上、調缺は歷俸三年以上として外補の制は法制化された。

要するに、これら外補の制は、吏部を媒介としない外省の督撫による、官僚昇進の銓選體系の創出として極めて重要な意義をもつものであった<sup>(30)</sup>。

ここでは、吏部の月選による二字・一字・無字缺と、四字・三字缺の外補缺（調缺・題缺）との比率を問題としよう。近藤氏作成の表より割合を算出した場合、縣缺の外補缺は四字缺が四・〇四%、三字缺が一七・二六%の計二一・三〇%に

過ぎなかった。残りの約八割弱は二字・一字・無字缺の部選缺であつた。しかし、「近日督撫定むる所の衝繁疲難の缺は、北方の四項を兼ねる者は、僅かに南の三を兼ねるに比し、北方の二項を兼ねる者は、僅かに南の簡缺に比するのみ」<sup>(32)</sup>というように、外補・部選の兩缺とも南北の地域差の矛盾を内包していた。

そこで、表2に立返ってみよう。大清仕籍全書の刊行された乾隆二十八年當時の四ランク26縣の知縣が、進士・舉人・貢生・監生・例監生・保舉の各出身者に總花的に配分されているのは、明代と異なる顯著な特徴である。十名の進士出身知縣に限定した場合、簡缺は三人、中缺は三人、要缺は三人、最要缺は一人である。又例監生が要缺を占め、保舉が中缺を占めている點も注目される。こうした中での清代進士の簡缺・中缺への配分比率の増大は、明代では殆ど進士で占められたはずの、外補缺の舉人・貢生・監生への解放による必然的な結果でもあつた。同時に、四ランクの缺へ各資格の出身者が總花的に配分されたのは、後述するように、選任制において明代の進士資格優遇主義から、清代の謂わば人物・能力重視主義の下で、各資格に昇進の展望が開けていた實態の一端を示している。

## 2 資格身分の縣官ポストへの貫徹

明清時代の末端行政單位である縣の各級ポストに、科舉制下の終身の資格身分である進士・舉人・貢生・監生・生員、或は胥吏・薦舉の各出身者が如何なる比率で存在していたかについて、清代地方志の職官表に據り、各王朝の前期(洪武・宣德、順治・康熙)、中期(正統・正徳、雍正・乾隆)、後期(嘉靖・崇禎、嘉慶・宣統)と、華北・華中・華南の地域別とが同時に読みとれるように統計化したのが以下の表5・6である。その際、統計化の過程を、「時代別・地域別にみた知縣任官者の出身別割合」として、明・清の前期のみについて例示したのが表5である。この中で、明代25縣、清代26縣の地域別配分は、明・清を通じて職官表に出身資格の明記が最も一貫しているものを取捨選擇したのち、表中の華北・華中・華南の各省數に應じて配列した。各縣の繁簡度は、前述のように明代では大明官制大全、清代では大清仕籍全書に基づいて推

表5 時代別・地域別にみた知縣任官者の出身別割合

\*煩を避けるため、地方志職官條の卷數の註記は省略した。

| 年代                                        | 地域區分                                     | 地方志名           | 王朝                                | 出身 |    |     |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      |    |    |   |
|-------------------------------------------|------------------------------------------|----------------|-----------------------------------|----|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|----|----|---|
|                                           |                                          |                |                                   | 明  | 清  | 明   | 清    | 明    | 高    | 明    | 清    | 監    | 生    | 明   | 清   | 明   | 清   | 明   | 清   | 推    | 秀    | 不    | 明  | 清  |   |
| 前                                         | 北(8〔7〕縣)                                 | 北直隸            | 民國18(1929)寧晉縣志                    | 簡  | 簡  |     | 5    | 1    | 5    |      | 3    |      |      |     |     |     |     |     |     |      |      | 6    | 3  |    |   |
|                                           |                                          |                | 同治12(1873)樂城縣志                    | 繁  | 簡  |     | 5    |      | 4    |      | 3    |      |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 1  | 7  |   |
|                                           |                                          | 河南             | 光緒31(1905)臨漳縣志                    | 簡  | 簡  | 2   | 2    |      | 3    | 1    | 9    | 1    | 3    |     |     |     |     |     |     | 1    |      |      |    | 8  | 1 |
|                                           |                                          |                | 嘉慶8(1803)商城縣志                     | 簡  | 簡  |     | 9    |      | 7    |      | 4    | 1    |      |     |     |     |     |     | 1   |      |      | 1    |    |    |   |
|                                           |                                          | 山東             | 乾隆38(1773)歷城縣志                    | 繁  | 要  |     | 4    |      | 4    |      | 2    | 2    |      | 1   |     |     |     |     |     |      |      |      |    |    | 8 |
|                                           |                                          |                | 民國15(1926)歷城縣志                    | 繁  | 要  |     | 4    |      | 4    |      | 2    | 2    |      | 1   |     |     |     |     |     |      |      |      |    |    | 8 |
|                                           |                                          | 山西             | 光緒20(1877)長治縣志                    | 繁  | 中  |     | 6    |      | 5    |      | 5    | 3    |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      |    |    | 1 |
|                                           | 光緒8(1882)汾陽縣志                            |                |                                   | 要  |    | 4   |      | 8    |      | 9    | 1    |      |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      |    | 1  |   |
|                                           | 陝西                                       | 同治11(1872)長安縣志 | 繁                                 | 最要 |    | 3   |      | 5    |      | 3    | 3    |      |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 4  | 4  |   |
|                                           | 總 員 數                                    |                |                                   |    |    |     | 2    | 38   | 1    | 41   | 1    | 38   | 1    | 13  |     | 1   |     | 1   |     | 1    | 19   | 25   |    |    |   |
|                                           | ((b)=(a)の總和) 平均員數(a)                     |                |                                   |    |    |     | 2    | 4.7  | 1    | 5.1  | 1    | 4.7  | 1    | 2.1 |     | 1   |     | 1   |     | 1    | 4.7  | 3.5  |    |    |   |
|                                           | (b)明9.7 清23.1 $\frac{a}{b} \times 100\%$ |                |                                   |    |    |     | 20.6 | 20.3 | 10.3 | 22.0 | 10.3 | 20.3 | 10.3 | 9.0 |     | 4.3 |     | 4.3 |     | 4.3  | 48.4 | 15.1 |    |    |   |
|                                           | 華中(11縣)                                  | 南直隸            | 光緒7(1881)嘉定縣志                     | 繁  | 中  | 1   | 5    |      | 13   | 2    | 8    | 3    |      | 1   |     | 2   | 1   |     |     |      |      |      | 10 | 11 |   |
|                                           |                                          |                | 光緒2(1876)清河縣志                     | 繁  | 簡  |     | 5    |      | 5    |      | 1    | 2    |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 7  | 16 |   |
|                                           |                                          |                | 嘉慶19(1814)民國7(1918)同治10(1871)上海縣志 | 繁  | 要  |     | 8    |      | 7    |      | 7    | 6    |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 10 | 2  |   |
|                                           |                                          | 安徽             | 光緒29(1903)盱眙縣志                    | 繁  | 中  |     | 7    |      | 9    |      |      | 1    | 5    |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 6  | 3  |   |
|                                           |                                          | 浙江             | 光緒8(1882)歸安縣志                     | 繁  | 要  | 1   | 3    |      | 3    |      | 7    |      | 5    |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 15 | 3  |   |
|                                           |                                          |                | 光緒3(1877)海鹽縣志                     | 繁  | 中  | 1   | 5    | 2    | 12   |      | 10   | 2    | 8    |     | 2   |     | 1   |     |     |      |      |      | 11 | 21 |   |
|                                           |                                          | 江西             | 同治9(1870)清江縣志                     | 繁  | 要  |     | 4    |      | 4    |      | 7    |      |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 6  |    |   |
|                                           |                                          | 湖南             | 光緒15(1889)湘潭縣志                    | 簡  | 要  |     | 6    |      | 3    |      | 5    |      | 1    |     |     |     |     |     |     |      |      |      |    | 13 |   |
|                                           |                                          |                | 同治13(1874)衡陽縣志                    | 繁  | 最要 |     | 5    |      | 5    |      | 7    |      | 3    |     |     |     |     |     |     |      |      |      |    | 2  |   |
|                                           |                                          | 湖北             | 光緒8(1882)黃岡縣志                     | 繁  | 要  | 1   | 2    | 1    | 3    |      | 4    |      | 3    |     |     |     |     |     |     |      |      | 2    | 3  | 1  |   |
|                                           |                                          | 四川             | 同治5(1866)萬縣志                      | 繁  | 中  |     | 2    |      | 1    |      | 4    |      | 1    |     |     |     |     |     |     |      |      |      |    |    | 3 |
| 總 員 數                                     |                                          |                |                                   |    |    | 4   | 52   | 3    | 65   | 2    | 60   | 3    | 37   |     | 3   |     | 3   | 1   | 2   | 68   | 75   |      |    |    |   |
| ((b)=(a)の總和) 平均員數(a)                      |                                          |                |                                   |    |    | 1   | 4.7  | 1.5  | 5.9  | 2    | 6    | 1.5  | 3.7  |     | 1.5 |     | 1.5 | 1   | 2   | 8.5  | 7.5  |      |    |    |   |
| (b)明15.5 清32.8 $\frac{a}{b} \times 100\%$ |                                          |                |                                   |    |    | 6.4 | 14.3 | 9.6  | 17.9 | 12.9 | 18.2 | 9.6  | 11.2 |     | 4.5 |     | 4.5 | 6.4 | 6.0 | 54.8 | 22.8 |      |    |    |   |
| 華南(7縣)                                    | 福建                                       | 同治18(1869)寧化縣志 | 簡                                 | 要  | 1  |     |      |      | 1    |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |      |      | 6    |    |    |   |
|                                           |                                          | 民國18(1927)建寧縣志 | 繁                                 | 中  |    | 6   | 1    | 3    |      | 6    |      | 3    |      | 1   |     |     |     | 1   |     |      |      | 4    | 2  |    |   |
|                                           |                                          | 建寧縣志           | 繁                                 | 中  |    | 3   | 1    | 1    |      | 5    | 2    | 4    |      |     |     |     |     | 1   |     |      |      | 5    | 2  |    |   |
|                                           | 廣東                                       | 光緒10(1884)潮陽縣志 | 繁                                 | 要  |    | 1   |      | 3    |      | 3    | 1    | 1    |      | 2   |     |     |     |     |     |      |      | 8    |    |    |   |
|                                           |                                          | 同治10(1871)番禺縣志 | 繁                                 | 要  | 1  | 3   |      | 7    |      | 4    |      | 3    |      |     |     |     |     |     |     | 2    |      | 4    |    |    |   |
|                                           | 廣西                                       | 道光21(1841)新會縣志 | 繁                                 | 要  | 1  | 3   |      | 6    |      | 7    | 4    | 3    |      |     |     |     |     |     |     |      | 2    | 7    | 3  |    |   |
|                                           |                                          | 光緒22(1878)貴縣志  | 簡                                 | 中  |    | 4   |      | 5    |      | 2    |      | 3    |      |     |     |     |     |     |     |      |      |      | 3  |    |   |
| 總 員 數                                     |                                          |                |                                   |    |    | 3   | 20   | 2    | 25   | 1    | 27   | 7    | 17   |     | 3   |     | 1   | 3   | 2   | 34   | 10   |      |    |    |   |
| ((b)=(a)の總和) 平均員數(a)                      |                                          |                |                                   |    |    | 1   | 3.3  | 1    | 4.2  | 1    | 4.5  | 2.3  | 2.8  |     | 1.5 |     | 1   | 1.5 | 2   | 5.7  | 2.5  |      |    |    |   |
| (b)明12.5 清21.8 $\frac{a}{b} \times 100\%$ |                                          |                |                                   |    |    | 8   | 15.1 | 8    | 19.2 | 8    | 20.6 | 18.4 | 12.8 |     | 6.8 |     | 4.5 | 12  | 9.1 | 45.6 | 11.4 |      |    |    |   |

定した。明・清を通じて、華中・華南は殆ど繁缺であり、華北は繁・簡相い半ばしている。又、平均員數(a)は、總員數を該當する縣志の數で除したものである。平均員數(a)の割合は、進士・不明に至る各出身の(a)の總和である(b)で(a)を除して百倍したものである。

表6「時代別・地域別の知縣・縣丞任官者の出身別割合」より検討しよう。各地域の平均値、例えば華北平均値(%)は、前・中・後三期の各出身別の平均員數の割合を合計して、三で除したものである。同様に全國平均値も、華北・華中・華南の三地域の平均値を合計して三で除したものである。なお、以下の表を含めて、知縣・訓導に及ぶ出身不明者の全國平均値は、明代は清代よりも割合が大きく三割を越えていた。

〔正七品知縣の各出身者〕 表6によれば、明代の進士・舉人出身知縣は、全地域のほぼ中・後期に増大した。特に華中・華南の中・後期における進士の著増は、その繁缺占有狀況を示していた。貢生・監生以下の出身知縣の割合は、微々たるものであった。全國平均値は、進士二六%、舉人一九・三%、貢生五・三%、監生九・八%、胥吏三%（但し、華南中期の新會縣のみの統計のため、實質は0%に等しい）、薦舉二・六%であり、進士出身者の割合が斷然トップを占めていた。

清代の各出身知縣は、前・中期に増大し、むしろ後期には減少した。その全國平均値は、進士一六・三%、舉人二六・一%、貢生一四・三%、監生一三・四%、生員四・七%、胥吏三・四%、薦舉三・七%であった。

明・清を比べた大きな特徴は、次の點であった。清代の進士出身知縣約一六・三%は、明代に比べて約十%減少したが、清代の舉人出身知縣は、明代より約十%増加して約二六・一%と全出身者の割合の首位を占めた。同時に、清代の貢生・監生出身知縣の割合も、明代より貢生で約九%、監生で約四%弱増加して、進士出身者に逼迫した。一方、明代では殆どゼロに等しかつた生員・胥吏出身者も、清代には生員で四・七%、胥吏で三・四%と一定の割合を占めるに至つた。

〔正八品縣丞の各出身者〕 明・清を通じて、縣丞缺に占める各出身者は、その五、六割が監生・貢生・胥吏に獨占されていた。その全國平均値をみた場合、特に監生の割合（約三二%）は、貢生（約一五%）・胥吏（約十%）の二・三倍に達し、

## 縣丞任官者の出身別割合

|      |      | 縣 丞 (正 八 品) |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |     |     |      |      |     |
|------|------|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|
| 不 明  | 進 士  | 舉 人         | 貢 生  | 監 生  | 生 員  | 胥 吏  | 薦 舉  | 不 明  | 明 清  | 明 清  | 明 清  | 明 清  | 明 清 | 明 清 | 明 清  | 明 清  | 明 清 |
| 19   | 25   | 2           | 5    | 11   | 8    | 4    | 1    | 1    | 4    |      |      |      |     |     | 5    | 14   |     |
| 4.7  | 3.5  | 1           | 1.6  | 2.7  | 8    | 2    | 1    | 1    | 2    |      |      |      |     |     | 5    | 3.5  |     |
| 48.4 | 15.1 | 7.2         | 11.5 | 19.5 | 57.1 | 14.4 | 7.2  | 7.1  | 14.4 |      |      |      |     |     | 35.7 | 25.3 |     |
| 56   | 33   |             | 1    | 1    | 6    | 14   | 9    |      | 1    | 4    |      |      |     |     | 2    | 6    |     |
| 14   | 4.1  |             | 1    | 1    | 2    | 7    | 3    |      | 1    | 2    |      |      |     |     | 2    | 3    |     |
| 66.6 | 13.8 |             | 9.0  | 9.0  | 18.1 | 63.6 | 27.2 |      | 9.0  | 18.1 |      |      |     |     | 18.1 | 27.2 |     |
| 48   | 57   |             |      | 11   | 6    | 18   | 29   |      | 1    | 3    | 1    |      |     |     | 11   | 13   |     |
| 9.6  | 9.5  |             |      | 2.7  | 3    | 4.5  | 9.6  |      | 1    | 3    | 1    |      |     |     | 2.7  | 4.3  |     |
| 21.8 | 17.7 |             |      | 20.9 | 15.8 | 34.8 | 50.7 |      | 5.2  | 23.2 | 5.2  |      |     |     | 20.9 | 22.7 |     |
| 45.6 | 15.5 | 2.4         | 6.8  | 10.0 | 17.8 | 51.8 | 30.8 |      | 4.1  | 13.1 | 12.6 |      |     |     | 24.9 | 25.1 |     |
| 68   | 75   | 4           |      | 1    | 39   |      | 26   |      |      |      | 15   | 2    | 3   |     | 16   | 47   |     |
| 8.5  | 7.5  | 1           |      | 1    | 4.8  |      | 4.3  |      |      |      | 2.5  | 1    | 1   |     | 2.2  | 5.2  |     |
| 54.8 | 22.8 | 19.2        |      | 19.2 | 26.9 |      | 24.1 |      |      |      | 14.0 | 19.2 | 5.6 |     | 42.3 | 29.2 |     |
| 39   | 70   | 2           | 2    | 7    | 2    | 38   | 86   | 83   | 2    | 11   | 14   |      |     |     | 71   | 56   |     |
| 4.1  | 6.3  | 2           | 2    | 2.3  | 1    | 4.2  | 12.2 | 7.5  | 1    | 3.6  | 2.3  |      |     |     | 8.8  | 8    |     |
| 21.8 | 16.9 | 6.7         | 6.7  | 9.0  | 33.7 | 16.6 | 41.2 | 29.6 | 3.9  | 12.1 | 9.0  |      |     |     | 29.7 | 31.6 |     |
| 25   | 147  | 2           | 1    | 4    | 82   | 27   | 76   | 120  | 11   | 30   | 12   | 1    | 2   |     | 185  | 157  |     |
| 5    | 14.7 | 1           | 1    | 2    | 11.7 | 3    | 10.8 | 12   | 1.8  | 5    | 2    | 1    | 1   |     | 26.4 | 14.2 |     |
| 11.6 | 26.0 | 1.7         | 2.7  | 5.4  | 20.9 | 8.1  | 19.3 | 32.4 | 4.8  | 8.9  | 5.4  | 1.7  | 2.7 |     | 47.2 | 38.3 |     |
| 29.4 | 21.9 | 9.25        | 0.92 | 4.8  | 24.6 | 17.2 | 20.1 | 28.7 | 2.9  | 7.0  | 9.5  | 7.0  | 2.7 |     | 39.7 | 33.0 |     |
| 34   | 10   | 1           |      |      |      | 17   | 5    | 12   | 3    |      | 2    |      |     |     | 14   | 20   |     |
| 5.7  | 2.5  | 1           |      |      |      | 3.4  | 1.6  | 2.4  | 1.5  |      | 2    |      |     |     | 3.5  | 4    |     |
| 45.6 | 11.4 | 16.3        |      |      |      | 25.5 | 26.2 | 18.0 | 11.2 |      | 15.0 |      |     |     | 57.3 | 30.0 |     |
| 17   | 14   | 1           | 3    | 3    |      | 17   | 33   | 37   | 3    | 7    | 7    |      |     |     | 21   | 35   |     |
| 3.4  | 3.5  | 1           | 1.5  | 1.5  |      | 5.6  | 8.2  | 12.3 | 1.5  | 2.3  | 2.3  |      |     |     | 5.2  | 8.7  |     |
| 15.4 | 11.3 | 5.4         | 8.2  | 4.7  |      | 17.5 | 45.0 | 38.5 | 4.7  | 12.6 | 7.2  |      |     |     | 28.5 | 27.2 |     |
| 20   | 41   |             |      | 2    | 23   | 12   | 27   | 92   | 5    | 21   | 6    | 2    | 6   |     | 57   | 55   |     |
| 6.6  | 8.2  |             |      | 2    | 5.7  | 4    | 6.7  | 23   | 2.5  | 5.2  | 3    | 1    | 2   |     | 14.2 | 13.7 |     |
| 15.9 | 15.8 |             |      | 3.9  | 17.3 | 7.9  | 20.4 | 45.8 | 4.9  | 15.8 | 5.9  | 3.0  | 3.9 |     | 43.2 | 27.2 |     |
| 25.6 | 12.8 | 7.2         | 2.7  | 2.8  | 5.7  | 17.0 | 30.5 | 34.1 | 6.9  | 9.4  | 9.4  | 1.0  | 1.3 |     | 43.0 | 28.2 |     |
| 33.5 | 16.7 | 5.5         | 1.1  | 1.6  | 4.8  | 13.4 | 17.3 | 34.2 | 4.6  | 9.8  | 10.5 | 2.6  | 1.3 |     | 35.9 | 28.7 |     |

表6 時代別・地域別の知縣・

| 地域時代        |          | 職官出身                                                 |    | 知縣（正七品） |      |      |      |      |      |      |      |     |     |      |     |     |     |
|-------------|----------|------------------------------------------------------|----|---------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
|             |          |                                                      |    | 進士      |      | 舉人   |      | 貢生   |      | 監生   |      | 生員  |     | 胥吏   |     | 薦舉  |     |
|             |          | 平均値                                                  | 王朝 | 明       | 清    | 明    | 清    | 明    | 清    | 明    | 清    | 明   | 清   | 明    | 清   | 明   | 清   |
| 華北<br>(87縣) | 前期       | 總員數                                                  |    | 2       | 38   | 1    | 41   | 1    | 38   | 1    | 13   | 1   | 1   | 1    | 1   | 1   | 1   |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 2       | 4.7  | 1    | 5.1  | 1    | 4.7  | 1    | 2.1  | 1   | 1   | 1    | 1   | 1   | 1   |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}9.7}{\text{清}23.1} \times 100\%$  |    | 20.6    | 20.3 | 10.3 | 22.0 | 10.3 | 20.3 | 10.3 | 9.0  | 4.3 | 4.3 | 4.3  | 4.3 | 4.3 | 4.3 |
|             | 中期       | 總員數                                                  |    | 10      | 37   | 14   | 77   |      | 23   | 2    | 27   |     | 2   |      | 1   |     |     |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 2.5     | 4.6  | 3.5  | 9.6  |      | 3.8  | 1    | 4.5  |     | 2   |      | 1   |     |     |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}21}{\text{清}29.6} \times 100\%$   |    | 11.9    | 15.5 | 16.6 | 32.4 |      | 12.8 | 4.7  | 15.2 |     | 6.7 |      | 3.3 |     |     |
|             | 後期       | 總員數                                                  |    | 12.5    | 73   | 63   | 95   | 8    | 50   | 2    | 58   |     | 3   |      | 5   |     | 2   |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 20.8    | 9.1  | 9    | 13.5 | 2.6  | 7.1  | 2    | 8.2  |     | 1.5 |      | 2.5 |     | 2   |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}44}{\text{清}53.4} \times 100\%$   |    | 47.2    | 17.0 | 20.4 | 25.2 | 5.9  | 13.2 | 4.5  | 15.3 |     | 2.8 |      | 4.6 |     | 3.7 |
|             | 華北平均値(%) |                                                      |    | 26.5    | 17.6 | 15.7 | 26.5 | 5.4  | 15.4 | 6.5  | 13.1 |     | 4.6 |      | 4.0 |     | 2.6 |
| 華中<br>(11縣) | 前期       | 總員數                                                  |    | 4       | 52   | 3    | 65   | 2    | 60   | 3    | 37   |     | 3   |      | 3   | 1   | 2   |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 1       | 4.7  | 1.5  | 5.9  | 2    | 6    | 1.5  | 3.7  |     | 1.5 |      | 1.5 | 1   | 2   |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}15.5}{\text{清}32.8} \times 100\%$ |    | 6.4     | 14.3 | 9.6  | 17.9 | 12.9 | 18.2 | 9.6  | 11.2 |     | 4.5 |      | 4.5 | 6.4 | 6.0 |
|             | 中期       | 總員數                                                  |    | 52      | 76   | 34   | 112  |      | 59   | 9    | 47   |     | 11  |      | 2   | 1   | 1   |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 6.5     | 6.9  | 4.2  | 10.1 |      | 5.3  | 3    | 4.7  |     | 1.8 |      | 1   | 1   | 1   |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}18.8}{\text{清}37.1} \times 100\%$ |    | 34.5    | 18.5 | 22.3 | 27.2 |      | 14.2 | 15.9 | 12.6 |     | 4.8 |      | 2.6 | 5.3 | 2.6 |
|             | 後期       | 總員數                                                  |    | 175     | 68   | 74   | 171  | 11   | 54   | 4    | 95   |     | 9   |      | 13  |     | 9   |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 21.8    | 6.1  | 12.3 | 15.5 | 2.7  | 4.9  | 1.3  | 9.5  |     | 1.5 |      | 2.1 |     | 2.2 |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}43.1}{\text{清}56.5} \times 100\%$ |    | 50.5    | 10.7 | 28.5 | 27.4 | 6.2  | 8.6  | 3.0  | 16.8 |     | 2.6 |      | 3.7 |     | 3.8 |
|             | 華中平均値(%) |                                                      |    | 30.4    | 14.5 | 20.1 | 24.1 | 6.3  | 13.6 | 9.5  | 13.5 |     | 3.9 |      | 3.6 | 3.9 | 4.1 |
| 華南<br>(7縣)  | 前期       | 總員數                                                  |    | 3       | 20   | 2    | 25   | 1    | 27   | 7    | 17   |     | 3   |      | 1   | 3   | 2   |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 1       | 3.3  | 1    | 4.2  | 1    | 4.5  | 2.3  | 2.8  |     | 1.5 |      | 1   | 1.5 | 2   |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}12.5}{\text{清}21.8} \times 100\%$ |    | 8       | 15.1 | 8    | 19.2 | 8    | 20.6 | 18.4 | 12.8 |     | 6.8 |      | 4.5 | 12  | 9.1 |
|             | 中期       | 總員數                                                  |    | 16      | 21   | 28   | 56   |      | 18   | 19   | 18   |     | 6   | 6    |     |     |     |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 3.2     | 5.2  | 5.6  | 11.2 |      | 4.5  | 3.8  | 4.5  |     | 2   | 6    |     |     |     |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}22}{\text{清}30.9} \times 100\%$   |    | 14.5    | 16.8 | 25.4 | 36.2 |      | 14.5 | 17.2 | 14.5 |     | 6.4 | 27.2 |     |     |     |
|             | 後期       | 總員數                                                  |    | 85      | 50   | 69   | 72   | 4    | 19   | 2    | 37   |     | 4   |      | 7   |     | 7   |
|             |          | 平均員數(a)                                              |    | 17      | 10   | 13.8 | 14.4 | 2    | 3.8  | 2    | 7.4  |     | 2   |      | 3.5 |     | 2.3 |
|             |          | (b) $\frac{\text{明}43.1}{\text{清}56.5} \times 100\%$ |    | 41.0    | 19.3 | 33.3 | 27.9 | 4.8  | 7.3  | 4.8  | 14.3 |     | 3.8 |      | 3.7 |     | 4.4 |
|             | 華南平均値(%) |                                                      |    | 21.1    | 17.0 | 22.2 | 27.7 | 4.2  | 14.1 | 13.4 | 13.8 |     | 5.6 | 9.0  | 2.7 | 4   | 4.5 |
| 全國平均値(%)    |          |                                                      | 26 | 16.3    | 19.3 | 26.1 | 5.3  | 14.3 | 9.8  | 13.4 |      | 4.7 | 3   | 3.4  | 2.6 | 3.7 |     |

各地域の中・後期に増大した。又、三出身者の割合は、明代では地域的に偏りがあつたが、清代では各地域にバランスがみられた。清代では、生員出身縣丞の全國平均値が四・六%を占めた點も注目された。

次に「時代別・地域別的主簿・典史任官者の出身別割合」(表は省略)を検討しよう。

〔正九品主簿の各出身者〕 時代・地域別に若干のバラツキはあるが、裁革が多く統計化できない清代の華南を除いた主簿缺の全國平均値をみた場合、明代の主簿缺は、監生(二八・〇%)・胥吏(二一・四%)や薦舉(八・二%)・貢生(四・六%)に、清代のそれは、胥吏(二七・八%)・監生(一九・七%)や貢生(二〇・八%)・生員(七・二%)に、ほぼ固定的に配分されていた。

〔未入流・典史の各出身者〕 地域的にはほぼバランスのとれている典史缺は、その全國平均値をみた場合、明代では胥吏(三七・三%)が獨占したが、清代では胥吏(二五・四%)と監生(二〇・八%)とに固定的に配分されていた。又、時代の下降毎に、清代典史缺の胥吏出身者は減少し、監生出身者は増大した。

次に「時代別・地域別の教諭・訓導任官者の出身別割合」(表は省略)を検討しよう。

〔未入流・教諭の各出身者〕 明・清を通じて、時代・地域別に大きな變化のみられない教諭缺の全國平均値は、明代では舉人二四・九%、貢生一七・四%であり、清代では舉人四五・八%、貢生二六・九%であつた。つまり、教諭缺は殆ど舉人・貢生出身者で占められる固定的ポストであり、明・清ともに舉人對貢生の割合は、ほぼ六對四であつた。

〔未入流・訓導缺の各出身者〕 明代の地域別割合で若干、華中・華南が高い以外は、明清を通じて、時代・地域別割合の大きな變化のない訓導缺は、全國平均値が明代では貢生三一・七%、舉人一〇・七%であり、清代では貢生五五・八%、舉人一九・二%であつた。つまり訓導缺は、殆ど貢生・舉人出身者で占められる固定的ポストであり、明・清ともに貢生對舉人の割合は、ほぼ七・五對二・五であつた。

要するに、繁缺を主體とした明代の知縣缺は、進士・舉人の中、特に進士出身者が高比率を占めていた。殆どを繁缺で



占める華中・華南の中・後期の知縣缺に進士が著増したのは、進士偏重の傾向を示していた。清代の知縣缺は、全地域の各時代を通じて、舉人をトップに進士・監生の各出身者にはほぼ同率に配分され、生員・胥吏にも一定程度配分された。

縣の佐貳・雜職缺の場合、明・清を通じて、縣丞缺は監生・貢生・胥吏の三出身者に、主簿缺は監生・胥吏（清代は胥吏がトップ）に、典史缺は胥吏・監生（明代は胥吏が獨占）に、教諭缺は舉人・貢生に、訓導缺は貢生・舉人に、各おの固定的に配分されていた。中でも監生・胥吏は、大きなウェイトを占めていた。

こうした事實は、科舉制下の特權的各級資格諸身分が、明と清では昇進の可能性の有無を伴いつつ、任官後も各級縣缺の上に序列的に機能していたことを意味していた。

問題は、知縣缺にみられた、明代の進士偏重から、清代に各級資格への配分枠が擴大したことのもつ意義である。配分枠の擴大は、知縣缺に止まらず全ての各級長吏のポストについても見られた。一例として、無錫・嚴懲功編『清代總督年表』『清代巡撫年表』（俱に『清代徵獻類編』所收）に據って、督・撫の出身構成を統計化したのが表7、表8である。

表7「清代の直隸總督・兩廣總督の各出身者の比率」に據って、直隸・兩廣に共通する傾向をみよう（○内の數字は比率の順位、以下同様）。①進士は約三十數％、②有效な父祖の蔭によって入監せずに直接任官できる蔭生は約十一％、④貢生は約八％、⑤舉人は約數％、⑥寫字人の筆帖式は約三〇四％、⑦生員は約三％、⑧八旗の官學生は約一％であった（以上共通）。③佐領等の世職旗人は、直隸の約七％に對して兩廣は約十五％と高いが、他省の統計と平均化すれば約十％弱であった。④監生は直隸の約八％に對して兩廣は約二％と低いが、他省の統計と平均化すれば前者の數値に近かった。なお、宣統元年の文童出身の兩廣總督は袁樹勳であった。この外、他省の例として、乾隆四十八年の吏員出身の四川總督には李世傑がいた。

表8「清代の山東巡撫・江蘇巡撫の各出身者の比率」に據って、山東・江蘇に共通する傾向をみよう。②舉人は約十三〇四％、⑥貢生は約五％、⑦生員は約三〇五％、⑧官學生は約一％内外であった（以上共通）。①進士は山東の約三・六％に

總督の各出身者の比率

| 生 員 |   |      | 附 生 |   |   | 官學生 |   |      | 筆帖式 |      |   | 佐領等の旗人 |      |      | 明の武舉人 | 不 明   |
|-----|---|------|-----|---|---|-----|---|------|-----|------|---|--------|------|------|-------|-------|
| a   | b | c    | a   | b | c | a   | b | c    | a   | b    | c | a      | b    | c    | c     |       |
|     |   |      |     |   |   |     |   | (a)1 |     |      |   |        | (a)1 | (a)1 |       |       |
|     |   |      |     |   |   |     |   | (a)1 |     |      |   |        | (a)1 | (a)1 |       |       |
|     |   |      |     |   |   |     |   |      |     |      |   |        | (a)1 |      |       |       |
|     |   |      |     |   |   |     |   |      |     | 1    |   |        |      |      |       | 2     |
|     |   |      |     |   |   |     |   |      |     | 1    |   |        | (a)1 |      |       | 2     |
|     |   |      |     |   |   |     |   |      |     |      |   |        |      |      |       | 3     |
|     |   |      |     |   |   |     |   |      | 1   | 1    |   |        |      |      |       |       |
| 1   |   |      |     |   |   |     |   | 1    |     |      |   |        |      |      |       |       |
|     |   |      |     |   |   |     |   |      | 1   |      |   |        |      |      |       |       |
|     |   |      |     |   | 1 |     |   |      |     | 1    |   |        |      |      |       | 1     |
|     |   |      |     |   |   |     |   |      |     |      |   |        |      |      |       | 2     |
| 1   |   |      |     |   | 1 |     |   | 1    | 2   |      |   | 2      |      |      |       | 6     |
| 1   |   |      |     |   | 1 |     |   | (a)1 | 1   | 2    |   | 3      | (a)2 | (a)1 |       | 8     |
|     |   | 2    |     |   |   |     |   | 1    |     | 3    |   | 5      |      | 1    |       | 8     |
|     |   | 2.7% |     |   |   |     |   | 1.3% |     | 4.1% |   | 6.8%   |      | 1.3% |       | 10.9% |

| 廩 生 |       |      | 監 生 |      |   | 生 員 |   |      | 文 童 |   |      | 官學生 |   |      | 筆帖式 |      |      | 佐領等の旗人 | 伯爵   | 不明    |
|-----|-------|------|-----|------|---|-----|---|------|-----|---|------|-----|---|------|-----|------|------|--------|------|-------|
| a   | b     | c    | a   | b    | c | a   | b | c    | a   | b | c    | a   | b | c    | a   | b    | c    | a      | b    | c     |
|     |       |      |     |      |   |     |   | (a)1 |     |   |      |     |   |      |     |      |      | 1      | (a)3 |       |
|     |       |      |     |      |   |     |   |      |     |   |      |     |   |      |     |      | (a)1 | (a)3   | 1    | 1     |
|     |       |      |     |      |   |     |   | (a)1 |     |   |      |     |   |      |     |      | (a)1 | 1      | (a)6 | 1     |
|     |       |      |     |      |   |     |   |      |     |   |      |     |   | 1    |     |      |      |        |      | 1     |
| 3   | 1     | (a)1 | 1   |      | 1 |     |   |      |     |   |      | 1   |   |      |     |      | 6    | (a)1   |      | 2     |
| 3   | 1     | (a)1 | 1   |      | 1 |     |   |      |     |   |      | 1   |   | 1    |     |      | 6    | (a)1   |      | 3     |
|     | 1     |      |     |      |   |     |   | 1    |     |   |      |     |   |      | 1   |      |      |        |      | 2     |
| 2   |       |      |     |      |   |     |   |      |     |   |      |     |   |      |     |      |      |        |      | 1     |
|     |       |      |     |      |   |     |   |      |     |   |      |     |   |      |     |      |      |        |      | 1     |
| 1   |       |      |     |      |   |     |   |      |     |   |      |     |   |      |     |      |      |        |      |       |
|     |       |      |     |      |   |     |   | 1    |     |   |      |     |   |      |     |      |      |        |      | 3     |
| 1   |       |      |     |      |   |     |   |      |     |   | 1    |     |   |      |     |      |      |        |      |       |
| 4   | 1     |      |     |      |   |     |   | 2    |     |   | 1    |     |   |      | 1   |      |      |        |      | 7     |
| 7   | 2     | (a)1 | 1   |      | 1 | 2   |   | (a)1 |     |   | 1    | 1   |   | 1    | 1   | (a)1 | (a)7 | (a)7   | 1    | 11    |
|     | 10    |      |     | 2    |   |     |   | 3    |     |   | 1    |     |   | 1    |     | 3    |      | 14     |      | 11    |
|     | 10.9% |      |     | 2.1% |   |     |   | 3.2% |     |   | 1.0% |     |   | 1.0% |     | 3.2% |      | 15.3%  |      | 12.0% |

\*\* 同一人物が時代間隔をおいて再度現われた時は数えていない。

表7 清代の直隸總督・兩廣

## 〈直隸總督〉

| 時代  | 出身<br>進士 |   |       | 舉人   |   |   | 拔貢生  |   |   | 歲貢生 |   |   | 附貢生   |   |   | 廩生   |   |      | 監生 |   |   |
|-----|----------|---|-------|------|---|---|------|---|---|-----|---|---|-------|---|---|------|---|------|----|---|---|
|     | a        | b | c     | a    | b | c | a    | b | c | a   | b | c | a     | b | c | a    | b | c    | a  | b | c |
| 順治  |          |   | 2     |      |   |   |      |   |   |     |   |   |       |   |   |      |   | (a)1 |    |   |   |
| 康熙  |          |   |       |      |   | 1 |      |   |   |     | 1 |   |       |   |   |      |   |      |    |   |   |
| 小計  |          |   | 2     |      |   | 1 |      |   |   |     | 1 |   |       |   |   |      |   | (a)1 |    |   |   |
| 雍正  |          |   | (a)5  |      |   |   |      |   |   |     | 1 |   |       |   |   |      |   | 1    |    |   | 1 |
| 乾隆  |          |   | 5     |      |   | 1 |      |   |   |     |   |   |       | 1 | 2 |      |   |      |    |   | 2 |
| 小計  |          |   | (a)10 |      |   | 1 |      |   |   |     | 1 |   |       | 1 | 2 |      |   | 1    |    |   | 3 |
| 嘉慶  |          |   | 6     |      |   | 1 |      |   |   |     |   |   |       |   |   |      |   | 2    |    |   |   |
| 道光  | 1        |   | (a)1  |      |   |   |      |   |   |     |   |   |       | 1 | 1 |      |   |      |    |   |   |
| 咸豐  |          | 1 | 1     |      |   |   |      |   |   |     |   |   |       |   |   | 1    |   |      |    |   |   |
| 同治  |          |   | 2     | 1    |   |   |      | 1 |   |     |   |   |       |   |   |      |   |      |    |   |   |
| 光緒  |          |   | 2     |      |   |   |      |   |   |     |   |   |       | 1 |   |      |   |      | 2  |   | 1 |
| 宣統  |          |   | 2     | 1    |   |   |      |   |   |     |   |   |       |   |   |      |   |      |    |   |   |
| 小計  | 1        | 1 | (a)14 | 2    |   | 1 |      | 1 |   |     |   |   |       | 2 | 2 |      |   | 2    | 2  |   | 1 |
| 總計  | 1        | 1 | (a)26 | 2    |   | 3 |      | 1 |   | 2   |   |   |       | 3 | 4 |      |   | (a)4 | 2  |   | 4 |
| 73  | 28       |   |       | 5    |   |   | 6    |   |   |     |   |   | 8     |   |   | 6    |   |      |    |   |   |
| 百分比 | 38.3%    |   |       | 6.8% |   |   | 8.2% |   |   |     |   |   | 10.9% |   |   | 8.2% |   |      |    |   |   |

## 〈兩廣總督〉

| 時代  | 出身<br>進士 |   |       | 舉人   |   |   | 拔貢生  |   |   | 恩貢生 |   |   | 歲貢生 |      |      | 優貢生 |   |   | 附貢生 |   |   |
|-----|----------|---|-------|------|---|---|------|---|---|-----|---|---|-----|------|------|-----|---|---|-----|---|---|
|     | a        | b | c     | a    | b | c | a    | b | c | a   | b | c | a   | b    | c    | a   | b | c | a   | b | c |
| 順治  |          |   |       |      |   |   |      |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 康熙  |          |   | 1     |      |   |   |      |   |   |     |   |   |     |      | (a)1 |     |   |   |     |   |   |
| 小計  |          |   | 1     |      |   |   |      |   |   |     |   |   |     |      | (a)1 |     |   |   |     |   |   |
| 雍正  |          |   | 1     |      |   |   |      |   |   |     | 1 |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 乾隆  | 1        |   | 4     | 1    |   |   |      |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 小計  | 1        |   | 5     | 1    |   |   |      |   |   |     | 1 |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 嘉慶  | 2        |   | (a)4  |      |   | 1 |      |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 道光  |          |   | 7     |      |   |   |      |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 咸豐  |          |   | 4     |      |   |   |      |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 同治  |          |   | 3     | 1    |   |   |      | 1 |   |     |   |   |     | 1    |      |     |   |   |     |   |   |
| 光緒  |          |   | 5     |      |   | 1 |      |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   | 2 |     |   | 2 |
| 宣統  |          |   |       |      |   | 1 |      |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 小計  | 2        |   | (a)23 | 1    |   | 3 |      | 1 |   |     |   |   |     | 1    |      |     |   | 2 |     |   | 2 |
| 總計  | 3        |   | (a)29 | 2    |   | 3 |      | 1 |   | 1   |   |   |     | (a)2 |      |     |   | 2 |     |   | 2 |
| 91  | 32       |   |       | 5    |   |   | 8    |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |
| 百分比 | 35.1%    |   |       | 5.4% |   |   | 8.7% |   |   |     |   |   |     |      |      |     |   |   |     |   |   |

\* a = 滿洲旗人, b = 蒙古旗人, c = 漢人〔漢人全體に占める旗人は( )内に示す〕

## 巡撫の各出身者の比率

| 監 生  |   |      | 生 員  |   |      | 廩 生  |   |   | 文 童  |   |   | 官學生  |      |      | 筆帖式  |      |   | 佐領等<br>の旗人 |      |   | 議敘    | 不明 |
|------|---|------|------|---|------|------|---|---|------|---|---|------|------|------|------|------|---|------------|------|---|-------|----|
| a    | b | c    | a    | b | c    | a    | b | c | a    | b | c | a    | b    | c    | a    | b    | c | a          | b    | c |       |    |
|      |   |      |      |   | (a)1 |      |   |   |      |   |   |      |      | (a)1 |      |      |   |            |      |   |       | 2  |
| 1    |   | (a)1 |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      | 1    |      |      |   |            | (a)2 |   |       | 4  |
| 1    |   | (a)1 |      |   | (a)1 |      |   |   |      |   |   |      | (a)1 | 1    |      |      |   |            | (a)2 |   |       | 6  |
|      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      |      |      |      |   |            |      |   |       |    |
|      |   | 1    |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      | 7    |      | (a)1 | 3 |            |      |   |       | 5  |
|      |   | 1    |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      | 7    |      | (a)1 | 3 |            |      |   |       | 5  |
|      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      | 1    |      |      | 1 |            |      | 1 |       | 1  |
| 1    |   |      |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      | 1    |      |      | 1 |            |      |   |       | 1  |
|      |   |      | 3    |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      |      |      |      |   |            |      |   |       |    |
|      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      |      |      |      |   |            |      |   |       |    |
| 1    |   | 4    |      |   |      |      | 1 |   | 1    |   |   |      |      |      |      |      |   |            |      |   |       | 1  |
|      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |   |   |      |      |      |      |      |   |            |      |   |       | 1  |
| 2    |   | 4    | 3    |   |      |      | 1 |   | 1    |   |   |      |      | 2    |      |      | 2 |            |      | 1 |       | 4  |
| 3    |   | (a)6 | 3    |   | (a)1 |      | 1 |   | 1    |   |   |      | (a)1 | 10   |      | (a)1 | 5 |            | (a)2 | 1 |       | 15 |
| 9    |   |      | 5    |   |      | 1    |   |   | 1    |   |   | 11   |      |      | 7    |      |   | 1          |      |   | 15    |    |
| 6.1% |   |      | 3.4% |   |      | 0.6% |   |   | 0.6% |   |   | 7.5% |      |      | 4.7% |      |   | 0.6%       |      |   | 10.2% |    |

| 監 生  |   |      | 生 員  |   |      | 官學生  |   |      | 筆帖式  |   |   | 漢旗人  | 明總兵  | 不 明  |  |
|------|---|------|------|---|------|------|---|------|------|---|---|------|------|------|--|
| a    | b | c    | a    | b | c    | a    | b | c    | a    | b | c | c    |      |      |  |
|      |   | (a)1 |      |   |      |      |   | (a)1 |      |   |   | (a)1 | 1    | 2    |  |
|      |   |      |      |   | (a)1 |      |   |      |      |   |   |      |      |      |  |
|      |   | (a)1 |      |   | (a)1 |      |   | (a)1 |      |   |   | (a)1 | 1    | 2    |  |
|      |   | 1    |      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |      |      |  |
|      |   |      | 2    |   |      |      |   | 2    |      |   |   |      |      | 3    |  |
|      |   | 1    | 2    |   |      |      |   | 2    |      |   |   |      |      | 3    |  |
|      |   |      |      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |      | 1    |  |
|      |   |      |      |   | 1    |      |   |      |      |   |   |      |      | 1    |  |
|      |   |      |      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |      | 1    |  |
|      |   | 1    |      |   |      |      |   |      |      |   |   |      |      |      |  |
|      |   |      | 2    |   |      |      |   | 2    |      |   |   |      |      |      |  |
|      |   |      | 1    |   |      |      |   |      |      |   |   |      |      |      |  |
|      |   | 1    | 2    | 1 |      | 1    |   | 2    |      |   |   |      |      | 3    |  |
|      |   | (a)3 | 4    | 1 | (a)1 | 1    |   | (a)1 | 4    |   |   | (a)1 | 1    | 8    |  |
| 3    |   |      | 6    |   |      | 2    |   |      | 4    |   |   | 1    | 1    | 8    |  |
| 2.3% |   |      | 4.6% |   |      | 1.5% |   |      | 3.1% |   |   | 0.7% | 0.7% | 6.2% |  |

\*\* 同一人物が時代間隔において再度現われた時は数えていない。

表 8 清代の山東巡撫・江蘇

## 〈山東巡撫〉

| 時代  | 出身<br>進 士 |   |       | 舉 人   |   |       | 拔貢生 |   |   | 歲貢生  |      |      | 廩貢生 |   |   | 附貢生 |   |   | 廩 生  |   |      |
|-----|-----------|---|-------|-------|---|-------|-----|---|---|------|------|------|-----|---|---|-----|---|---|------|---|------|
|     | a         | b | c     | a     | b | c     | a   | b | c | a    | b    | c    | a   | b | c | a   | b | c | a    | b | c    |
| 順 治 |           |   | 1     |       |   | 3     |     |   |   |      |      |      |     |   |   |     |   |   |      |   |      |
| 康 熙 |           |   | 6     |       |   | 3     |     |   |   |      | (2)2 |      |     |   |   |     |   |   |      |   | (2)2 |
| 小 計 |           |   | 7     |       |   | 6     |     |   |   |      | (2)2 |      |     |   |   |     |   |   |      |   | (2)2 |
| 雍 正 |           |   | 2     |       |   | 1     |     |   |   |      |      |      |     |   |   |     |   |   | 1    |   | 1    |
| 乾 隆 | 7         |   | 3     | 2     |   | (1)3  |     |   |   |      |      |      |     |   |   |     |   |   | 1    | 1 | (1)4 |
| 小 計 | 7         |   | 5     | 2     |   | (1)4  |     |   |   |      |      |      |     |   |   |     |   |   | 2    | 1 | (1)5 |
| 嘉 慶 | 1         |   | (1)8  | 2     | 1 |       |     |   |   |      |      |      |     |   |   |     |   |   | 1    | 1 |      |
| 道 光 | 2         |   | (2)9  |       |   | 1     |     |   |   |      |      |      | 1   |   |   |     |   |   | 1    |   |      |
| 咸 豐 | 1         |   | 4     |       |   | 2     |     |   | 1 |      |      |      |     |   |   |     |   |   |      |   |      |
| 同 治 | 1         |   | 2     |       |   | 1     |     |   |   |      |      |      |     |   |   |     |   |   |      |   |      |
| 光 緒 | 1         |   | 5     |       |   | 1     |     |   | 2 |      |      | 1    |     |   |   |     | 1 |   |      |   |      |
| 宣 統 |           |   |       |       |   | 1     |     |   |   |      |      |      |     |   |   |     |   |   |      |   | 1    |
| 小 計 | 6         |   | (3)28 | 2     | 1 | 6     |     |   | 3 |      |      | 1    | 1   |   |   |     | 1 |   | 2    | 1 | 1    |
| 總 計 | 13        |   | (6)40 | 4     | 1 | (1)16 |     |   | 3 |      |      | (2)3 | 1   |   |   |     | 1 |   | 4    | 2 | (3)8 |
| 146 | 53        |   |       | 21    |   |       |     |   |   | 8    |      |      |     |   |   |     |   |   | 14   |   |      |
| 百分比 | 36.3%     |   |       | 14.3% |   |       |     |   |   | 5.4% |      |      |     |   |   |     |   |   | 9.5% |   |      |

## 〈江蘇巡撫〉

| 時代  | 出身<br>進 士 |   |       | 舉 人   |   |      | 歲貢生 |   |   | 優貢生  |   |   | 副貢生 |   |   | 附貢生 |   |   | 廩 生  |   |      |
|-----|-----------|---|-------|-------|---|------|-----|---|---|------|---|---|-----|---|---|-----|---|---|------|---|------|
|     | a         | b | c     | a     | b | c    | a   | b | c | a    | b | c | a   | b | c | a   | b | c | a    | b | c    |
| 順 治 |           |   | 1     |       |   |      |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   |      |   |      |
| 康 熙 | 1         |   | 8     |       |   | (1)1 |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   |      |   | 2    |
| 小 計 | 1         |   | 9     |       |   | (1)1 |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   |      |   | 2    |
| 雍 正 | 1         |   | (4)7  |       |   | 1    |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   |      |   | (1)1 |
| 乾 隆 | 3         |   | 14    | 2     |   |      |     |   |   |      |   |   |     |   | 1 |     |   |   |      |   | (1)1 |
| 小 計 | 4         |   | (4)21 | 2     |   | 1    |     |   |   |      |   |   |     |   | 1 |     |   |   |      |   | (2)2 |
| 嘉 慶 |           |   | (1)9  | 1     |   | 2    |     |   |   |      |   | 1 |     |   |   |     |   |   |      |   |      |
| 道 光 |           |   | 11    |       |   | 2    |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   |      |   |      |
| 咸 豐 |           |   | 4     |       |   | 1    |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   |      | 1 |      |
| 同 治 |           |   | 4     | 1     |   | 3    |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   |      |   |      |
| 光 緒 | 1         |   | 11    | 2     |   | 1    |     |   | 1 |      |   |   |     |   |   |     |   |   | 1    |   |      |
| 宣 統 |           |   | 1     |       |   | 1    |     |   |   |      |   |   |     |   |   |     |   |   | 1    |   |      |
| 小 計 | 1         |   | (1)40 | 4     |   | 9    | 1   | 1 |   |      |   | 1 |     |   |   |     |   |   | 2    | 1 |      |
| 總 計 | 6         |   | (5)70 | 6     |   | 11   | 1   | 1 |   |      |   | 1 |     |   | 1 |     |   |   | 2    | 1 | (2)4 |
| 129 | 76        |   |       | 17    |   |      |     |   |   | 6    |   |   |     |   |   |     |   |   | 5    |   |      |
| 百分比 | 58.9%     |   |       | 13.1% |   |      |     |   |   | 4.6% |   |   |     |   |   |     |   |   | 3.8% |   |      |

\* a = 満洲旗人, b = 蒙古旗人, c = 漢人〔漢人全體に占める旗人は( )内に示す〕

對して江蘇は約五九%であり、③廩生は山東の約十%に對して江蘇は約四%であり、④筆帖式は山東の約八%に對して江蘇は約三%であり、⑤監生は山東の約六%に對して江蘇は約二%であり、⑥旗人は山東の約五%に對して江蘇は約一%であるが、他省の統計と平均化すれば、何れもほぼ前者の傍點の數値に近かった。山東には文童・議紋が各おの一人、江蘇には明總兵が一人みえる。他省の文童出身巡撫の例としては、光緒三十一年の科舉廢止以前に限定しても、安徽・新疆にみえる。

こうした清代督・撫の出身別構成にみられる特徴は、明代の進士獨占傾向とは一變して、舉人・貢生・監生・生員という廣義の科舉出身者や、廩生・旗人・筆帖式・官學生等がポストに一定の割合を占めるに至り、進士出身者は全體の三割強に激減した點である。<sup>(34)</sup>この特徴は、地方志職官中の前述知縣缺の出身構成にみられた特徴ともほぼ一致している。

清代では、法制上でも確かに右の縣官や督・撫に檢證した各出身者には、任官の用途が開かれていた。『清國行政法』第壹卷下、一七五頁の「文官仕途ノ種類」には、嘉慶大清會典卷六に據つて、次のように言う。正途には、(一)科甲、(二)貢生、(三)廩生、雜途には、(一)薦舉（特に雍正四年の學政の薦舉による優行生員の場合、その知縣への直接任命は貢生と俱に雍正五年四月に裁可<sup>(36)</sup>なお生員・准貢・例監・吏員等の出身官が該堂官又は督・撫の保舉により京官及び地方正印官へ陞轉したのは康熙六年の題准に始まつた<sup>(37)</sup>、(二)捐納、(三)吏胥の特別遷秩（知縣への陞轉）があつた、と。

表6の知縣の出身表でもみたように、清代の銓選が明代と異なるのは、生員・胥吏に正印官への仕途（陞轉・薦擢用）が公認された點であつた。この點は先ず康熙六年の題准に規定されたのであつたが、康熙帝は元年の敕諭において、「用人は資格に拘らず一體に陞轉せしむ<sup>(38)</sup>と確認していた。この中、前述の雍正四年、「有猷（政略）有爲（才能）有守（操守）」の生員に薦舉の道が開けた理由について、『清國行政法』第壹卷下、一八二頁は、殆ど古典の教養試験である科舉の及落判定からは、實際政治に要求される「人品」（倫理的操守）・「才能」（行政的手腕）ある生員が漏れる恐れがあり、この矛盾を緩和するために優秀な生員の薦舉が始まつたことを説く。

要するに、昇進を阻害して吏治を腐敗に導く資格偏重の是正こそは、人物・能力本位の適材を、外補制を通じて適所に任用し、吏治の肅清をめざした清朝<sup>(39)</sup>にとって必須の前提条件であった。生員・胥吏は勿論、文章までが督・撫へ昇進した事實は、その點を裏付けていた。

### おわりに

文獻史料によれば、明代中期以降、舉人・貢生・監生の各級有資格者は、地方官に任官した場合、彼らの怨念を大聲で閻魔大王に提訴せざるを得ないほど、異常に進士資格を偏重する官界の陋習によって、選任・考課の上で差別され、昇進の願望を打ち碎かれて貪官化していた。彼ら各級有資格者が知縣以下の縣缺に占めた割合を、地方志の職官條より作成した統計表に據って清代のそれと對比した場合、各級縣缺は各級資格によって固定的に占められていた。特に知縣缺の場合、明代の進士は、繁缺へ優先的に配分され、且つその割合も高率を占めていた。これに對して清代の進士は、外補の制によって簡缺を経て繁缺へ昇らねばならず、且つその割合も相對的に低下し、舉人・貢生・監生と比肩していた。

こうした事實は、ポスト<sup>(40)</sup>缺が資格<sup>(40)</sup>身分で固定化し、地方官の昇進が絕たれる明代官場に特有の身分制序列の貫徹として理解できる。同時に、清代の知縣・督・撫に至る各級長吏のポストに、生員以上の各級資格からの幅廣い任用が實現したのは、資格主義の生んだ明末以來の官僚政治（吏治）の腐敗を繼承することを前提に成立した清朝が、縣の佐貳・雜職のポストには資格による一定の身分制序列を溫存しつつも、地方官に昇進を保證して吏治の肅清を圖った政策の一面の成果であつたと考えられる。それは又、總體的には資格身分制において、進士に對する舉人・貢生・監生・生員の社會的價值が相對的に上昇することに繋がる意味を内包しており、清代紳士層の存在形態と併せて、更に検討を要する。

## 註

(1) 管志道・從先維俗議卷一、答敍科不敍爵駁議。

(2) 拙稿「明代舉人層の形成過程に關する一考察」『史學雜誌』87—3、一九七八年。

(3) 吳金成「明代紳士層の形成過程について(上・下)」山根幸夫・稻田英子譯、『明代史研究』8、9、一九八〇年、八一年。谷光隆「明代監生の研究」『史學雜誌』73—6、一九六四年。註2拙稿。拙稿「徭役優免條例の展開と明末舉人の法的位置」『東洋學報』60—1・2、一九七八年。參照。

(4) 拙稿「明末清初の郷紳用語に關する一考察」『九州大學東洋史論集』9、一九八一年。

(5) 拙稿「明末清初以降の紳士身分に關する一考察」『明代史研究』9、一九八一年。

(6) 註4拙稿。

(7) 藤岡次郎「清代の徭役」『歴史教育』12—9、一九六四年。註3拙稿。

(8) 丘濬・大學衍義補卷九、治國平天下之要、正百官、清入仕之路。徐學聚・國朝典彙卷四三、吏部十二、徵召。

(9) 谷光隆「明代銓政史序說」『東洋史研究』23—2、一九六四年、八六—七頁。

(10) 張朝瑞・皇明貢舉考卷四、正統十三年。

(11) 明實錄・嘉靖十年三月辛丑。拙稿「萬曆政治における員缺の位置」『九州大學東洋史論集』2、一九七六年、參照。

(12) 明實錄・嘉靖四十四年二月庚辰、御史秦嘉楨言。……今進士一途、布列州縣者、十僅二三。

(13) 葛端肅公集卷一、添進士以裕民牧疏、

欲民安事舉、惟守令得其人而已。而守令之得人、惟進士爲最。……百姓之目進士、未見其人、固已委心信服。

(14) 談遷・國權卷九五、思宗崇禎九年十月甲申。陳邦彥・陳巖野先生集卷一、固園篇第七、重守令。堵九錫・堵文忠公集卷四、任命守令疏。

(15) 明實錄・嘉靖二十二年十一月甲寅、吏部議覆。……近年以來、專據資格。其策名科甲者、雖過惡彰聞、而祿位如故。出自異途者、雖彈心勤政、行已無虧、一或得罪上官、輒被中傷、不無可惜。

拙稿「考察『八法』の形成過程(一)」『九州大學東洋史論集』11及び12、一九八三年、參照。

(16) 趙忠毅公文集卷一四、朝覲合行事宜疏、今甲科之塗極重。起家甲科者、尊卑長幼皆同袍也。而其中又有鄉里親戚、門生故吏、通家朋好、雖知其貪酷、皆不肯言。陸世儀・復社紀略卷三、丙子春二月、淮安衛三科武舉臣陳啓新奏。

若進士則朝廷之爵、皆其砧几上物。天下之官、皆其朋比之人。噓成一氣、打成一片、賢古莫問、賄賂通行。

參照。

(17) 譯文は、千田九一譯「近古奇觀3」(東洋文庫77)第二十一話、「老門生三世に恩を報いること」に據った。この中には、「按院」を按察使、「科貢官」を推薦組とするなどの誤譯もある。

(18) 田藝衡・留青日札卷三七、非武備、非民風、參照。

(19) 拙稿「朝覲考察制度の創設」『九州大學東洋史論集』10、



一九八二年。

(20) 『清國行政法』汲古書院、一九七二年、第一卷下、三〇頁。

(21) 近藤秀樹「清代の銓選―外補制の成立―」『東洋史研究』17-2、一九五八年

(22) 繁簡互調の制は、萬曆明會典卷五、吏部四、改調、降調附。明實錄・成化十四年正月丁丑。參照。

(23) 嘉隆新例附萬曆卷一、隆慶四年十二月吏部題奉聖旨依議行。參照。

(24) 皇朝經世文編卷一七、吏政、書雷願二給事監掣疏後。

(25) 王圻・續文獻通考卷八七、吏部堂屬。

(26) 張榮林『掣籤法』考『大陸雜誌』57-5、一九七八年。參照。

(27) 清國行政法第一卷下、二三二―三三三頁。

(28) 註21近藤論文五一頁。

(29) 雍正硃批諭旨・郭銑、六年三月十九日硃批諭旨。註21近藤論文四五頁。

(30) 註21近藤論文一七〇―一七五頁。

(31) 註21近藤論文一七八頁註5。

|     | 府   | 州  | 縣    | ※(縣)百分比 |
|-----|-----|----|------|---------|
| 四字缺 | 27  | 1  | 59   | 4.04%   |
| 三字缺 | 67  | 28 | 252  | 17.26%  |
| 二字缺 | 48  | 30 | 428  | 29.31%  |
| 一字缺 | 21  | 4  | 328  | 22.46%  |
| 無字缺 | 0   | 4  | 373  | 25.54%  |
| その他 | 13  | 1  | 20   | 1.369%  |
| 不明  |     |    |      |         |
| 總計  | 176 | 68 | 1460 |         |

※ 百分比は、和田が算出した。

典據・乾隆五十三年自序、洪亮吉・乾隆府廳州縣圖志五〇卷(洪北公先生遺集、所收)

(32) 陶正靖「吏治因地制宜三事疏」(皇朝經世文編卷一七、吏政)。

(33) 崇禎十四年の明朝の職員錄と推定される浙江臺州洪家書舖刊の分省撫按縉紳便覽(上海古籍書店復印)二冊に據れば、全國二直隸十三省の十總督、二十八巡撫の計三十八員全員が進士出身者であった。註11。(科目疏)「若夫京堂之選、則惟進士得之而舉人不復有矣。其偏如此」。參照。

(34) 前述の督・撫年表によれば、清代の著名な官僚、例えば康熙二十年の兩江總督于成龍は副貢生、雍正二年の河南巡撫田文鏡は監生、同治二年の閩浙總督左宗棠は舉人、同治四年の江西巡撫劉坤一は廩貢生(附貢生?)、光緒二十五年の山東巡撫袁世凱は貢生(監生?)であった。

(35) 嘉慶大清會典事例卷五八、吏部、除授、薦舉優行生員、雍正四年諭。

(36) 乾隆三十二年奉敕撰・皇朝通典卷一八、選舉制文科、雍正五年四月の上諭。註35の雍正五年上諭には、生員の知縣任命を記していない。

(37) 雍正大清會典卷十二、吏部十、漢缺推陞、凡生員准貢例監吏員投誠出身等官、康熙元年諭、六年題准。

(38) 註37康熙元年諭。

(39) 梁希哲「試論清世宗的吏治思想」『史學集刊』一九八三年、第三期。宮崎市定『雍正帝』岩波書店、一九五〇年。

(40) 松本善海『中國村落制度の史的研究』岩波書店、一九七六年、一四三―一四四頁。

## THE STATUS SYSTEM OF MING DYNASTY LOCAL BUREAUCRACY — a comparison of Ming and Qing district office-holding

WADA Masahiro

Though they were qualified for different levels of local office, from the middle of the Ming dynasty the *juren* 舉人, *gongsheng* 貢生 and *jiansheng* 監生 suffered discrimination in regard to appointment and merit evaluation because of the disproportionate emphasis placed on *jinshi* 進士 candidates, and this made it difficult for them to advance in office. If we examine the percentages of the district offices (including that of magistrate) held by each of the different levels of candidates as this is noted in the lists of officials 職官表 in the local gazetteers and compare these percentages with the corresponding percentages for the Qing dynasty, we find that during the Ming each level of candidates occupied a fixed level of the local bureaucracy. Especially in the case of the post of magistrate the Ming dynasty *jinshi* were treated preferentially, in that they occupied a disproportionately large part of the important magistracies with high income 繁缺. In contrast to this, the *jinshi* of the Qing dynasty had to pass through relatively unimportant posts with low income 簡缺 because of the system of advancing from lower district posts to that of magistrate 外補 and their percentage of posts with high income was therefore relatively low and comparable to that of the *juren*, *gongsheng* and *jiansheng*. This shows that the local bureaucracy had become rigidly structured according to the status of the candidates habitually holding the various offices and that advancement was blocked for local officials on account of the domination of the bureaucratic world by this status system particular to the Ming dynasty. The fact that during the Qing dynasty the posts of magistrate, governor and governor-general were filled by candidates from the rank of *shengyuan* 生員 and up was the result of a policy to reform the bureaucracy in order to guarantee possibilities of advancement to holders of local office, though there still existed a kind of status system affecting who filled the lower district offices (佐貳, 雜職).